日支事變特輯號

第六巻

歴史寫眞

四月號



満洲に春よみがへる

大正二年創刊 第二百二十七號

歴史寫眞第二百二十七號 昭和七年三月二十五日印刷納本 大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年四月一日發行（毎月一回一日發行）

表紙繪と口繪

——表紙繪——

◇滿洲に、春よみがへる

張家二代の軍閥は滿蒙三千萬の民衆に對し堪へ難き壓制と搾取を敢てし、人心極度に萎靡沈滯したる結果は豐穰無比の沃土も唯だ徒らに一望荒涼たる原野の儘に横はり無盡藏の資源亦何びとも是を開發せんと試みるなく世界の寶庫空しく死滅せんとする時、奉天郊外柳條溝のほとり圖らずも突發したる日支兩軍の衝突は、遂に『滿洲事變』の導火線となり、斷然蹶起したる皇軍の前にさしもの東北軍閥一たまりもなく崩壞すると共に、滿蒙四省の民衆は期せずして自主獨立の新國家建設を要望し、爾來半歳、新國創建の準備は着々進捗し、遂に二月〇日『大滿洲國』は高らかにその產聲を擧げ、超えて三月九日國都長春に於て莊嚴なる建國式の盛典擧行せられ若き英明の溥儀氏は此の多幸なるべき新興國の元首として執政の職に就いたのである。かくて過去幾十年の久しきに亙り塗炭の苦楚を嘗め來りたる滿蒙三千萬の民衆は、春麗らかなる陽光のもと、心身共によみがへりたる心地して、已が樂土の萬々歲を謳歌しつつあるのである。寫眞は雪こそあれど、そことなく春立ちかへる奉天の街頭に嬉々として戯むるる無邪氣な支那人の子供等である。

——口繪——

◇上海黃浦江上の我軍艦

上海事變勃發と共に帝國軍艦大小數十隻は上海黃浦江より吳淞に亘り堂々その威容を並べ、選抜せられたる海軍陸戰隊は十倍乃至數十倍の支那陸兵を相手として慣れざる市街戰に日夜間斷なき奮鬪を續け、さしも慓悍の聞へ高き十九路軍をして一步も租界內に入らしめず、約一ヶ月の久しきに亙り、敢然その職責を全うしたる健鬪振りは世界の戰史上類なき功績と稱せられた。寫眞は此の勇敢なる我が陸戰隊を援護しつつ、堂々舳艫相ふくむで上海を威壓したる我が第三艦隊旗艦『出雲』の甲板上より、戰禍の市街を望み見たる光景である。前方は上海**バンド**である。

◇敵の殘兵を農家に燒く

二月二十日上海に於て總攻擊の命令下るや全軍踴躍攻擊を開始したが、敵の陣地は孰れも堅固なる建築物を利用し、且つ水壕、鐵條網等の障碍物を有するもの多く、而も一として完全なる交通路のあるなく、特に砲兵の前進は極めて困難なるのみならず且つ所在に便衣隊の出沒するあり、軍の行動に多くの支障を來したが、勇氣凛然たる我軍は毫も怯まず、總攻擊第一日の夜までに金濶宅より江灣鎭、孟家宅、齊家宅、方濱の線に進出し、翌二十一日には江灣鎭の殘敵及び附近の便衣隊を掃蕩し、交通を整理し、砲兵を推進し、翌二十二日はかの壯烈爆彈三勇士を出したる廟巷鎭の戰ひに遺憾なく敵を擊破し、二十三日更に陣地を進めて一先づ一大成功裡に第一次の總攻擊を終つた。寫眞は江灣鎭方面周家宅附近に於て我軍敵の殘兵を一農家に追ひ詰め、而も頑强に抵抗するを家諸共燒き拂ひつつある光景である。

◇江灣の敵と戰ふ〇〇隊

上海附近、今回の戰場となりたる邊りは溝渠縱横に列り、而も一として完全なる橋梁の架せらるるなく、軍の行動には極めて至難の地であつた。殊に江灣鎭は支那軍第一線の最も重要なる地點で、敵は此處に堅固なる半永久的の防禦陣地を構築し、且つ前記の水濠を利して難攻不落を誇つてゐたので、是が完全なる攻略には我軍も豫期以上の努力を拂つたので、二十日の第一次總攻擊に始まり、同地に敵の一兵をも餘さざるに至つたのは實に第二次總攻擊の二十七日で其間約一週間の久しきに亙り敵は頑强に此地を死守したのである。寫眞は二月二十一日江灣鎭方面の最前線に於て敵と激戰中の我〇〇隊である。

◇民家屋上より敵狀視察

二月上旬、**ハルビン**方面の形勢刻々險惡となり我が居留民の危機漸く急迫を告ぐるものありたる爲め關東軍司令官は長春駐屯中の多門〇團に對し斷乎**ハルビン**進擊を命じたるに依り、同〇團は二日朝、長谷部〇團を先發隊として裝甲車、戰車隊と共に出動、續いて多門中將以下の主力、長春を出發したがその途上、處々に兵賊出沒して鐵道を破壞し我軍の輸送を防害したるも、双城堡附近及び**ハルビン**郊外の激戰に我軍大勝し、五日多門〇團は堂々**ハルビン**に入城した。寫眞は双城堡附近の民家屋上より我が兵今しも敵狀偵察中の光景で軒下に遊べる豚の群れに戰亂の巷とも思へぬ一種**ナンセンス**な野趣横溢の情景を見る。

◇五代に仕へし武內宿禰

（小早川好古畫伯筆）

武內宿禰は第十二代景行天皇の御代より朝廷に仕へ成務天皇の朝に大臣となり、仲哀天皇熊襲を征し給ふに及び是に扈從し、更に神功皇后を援け奉りて三韓征討の軍を起し、應神天皇を奉じて大和に還り坂忍熊の叛を平らげ、仁德天皇の御時、稀有の長壽を以て薨じたのである。圖は應神天皇の三月、武內宿禰、武振熊と共に神功皇后に從ひ、大和の叛軍征討に發せんとして謀を上りつつある有樣である。



上海黃浦江上
我軍艦の威容



ハルビン方面民家屋上の偵察隊



支那事局地圖
上海市街圖
①日本領事館
②米國領事館
③英國領事館
④露國總領事館
⑤英國領事館
⑥上海商工會館
⑦佛國領事館
⑧白耳義領事館
⑨伊太利領事館
⑩米海軍公署
⑪葡萄牙領事館
⑫日本總領事館
⑬獨逸領事館
黒龍江省
吉林省
奉天省
熱河省
察哈爾省
綏遠省
河北省
山西省
山東省
河南省
江蘇省
安徽省
湖北省
外蒙古
朝鮮
日本海
黄海
渤海
東海
九洲
日本鉄道
支那鉄道
日本経営鉄道
軽便鉄道
日本投資予定鉄道
支那予定鉄道



江灣方面激戰中の我〇〇隊

◆◆◆獨立を宣したる滿蒙新國家の元首と大官◆◆◆

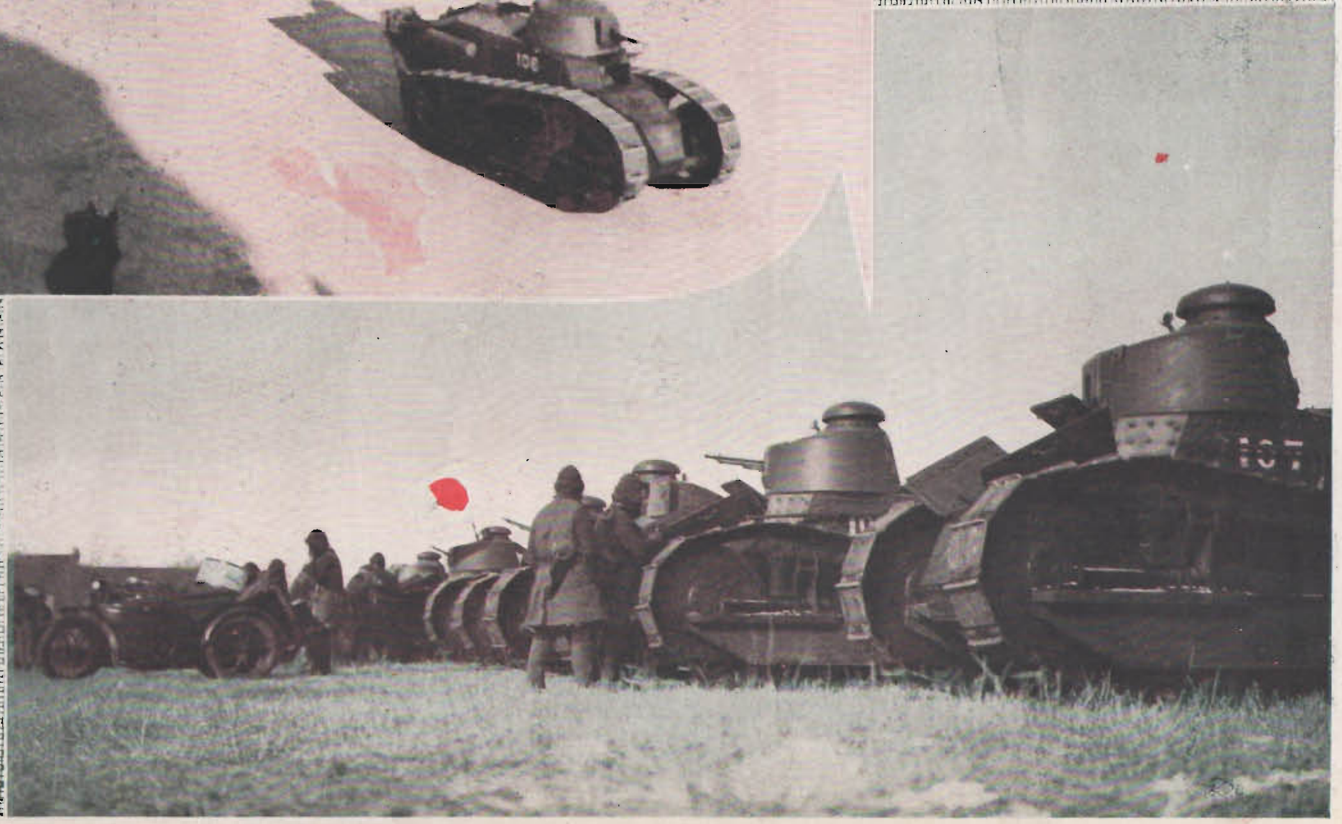




限りなき資源を藏して而もその開發意の如くならず、徒らに張學良一派軍閥の壓迫と搾取に苦しみたる滿蒙三千萬民衆は、今回圖らずも勃發した滿洲事變に際し、我日本軍の武威遂に克く彼の暴戾なる軍閥を掃蕩し盡したる機會に乘じ、全民衆の總意に依り茲に中華民國を離脫して新たに自主獨立することとなり、內は王道を以て基準とし人民の安寧福利を增進し、外は門戶開放、機會均等主義を尊重して外國と修睦する方針の下に、愈々二月十八日中外に向つて獨立を宣言したが、その元首には前清國皇帝たりし宣統帝卽ち溥儀氏を推戴して執政と呼ぶこととなり新國家建設の衝に當るべき最高政務委員會は張景惠、馬占山、臧式毅、熙洽及び湯玉麟の五氏を以て組織せられ、建國の大業は今や着々進捗しつゝあるのである。寫眞の左は新國家の元首となれる溥儀氏、右は二月十六日奉天大和ホテルに於て徹宵建國會議を催したる巨頭連で、右より馬占山氏、臧式毅氏、張景惠氏及び熙洽氏である。

◆◆◆ハルビン入城の我が戰車隊◆◆◆





二月初旬、長春駐屯の我多門〇團は**ハルビン**方面に於ける反吉林聯合軍討伐の爲め同月二日より四日に亘り、長春を出發したが、途中多數の兵賊が我軍の輸送を妨害する爲め鐵道を破壞したので、裝甲車隊、戰車隊、歩兵〇〇聯隊等は止むなく列車を捨て進軍を續け、途上隨所の敵を撃破驅逐し、同月五日その先頭部隊は堂々**ハルビン**に入城した。かくて多門〇團晴れの入城式は翌六日午前八時を以て擧行せらるゝこととなり、定刻進軍喇叭の響きは晴れ渡る朝の大氣をふるはせ歩騎砲の各隊及び是に續く戰車隊の大行進は城門内に吸ひ込まれ、全市を擧げての感激と感謝に、『救世主多門〇團萬歳』の聲は天地に轟き、蜿蜒長蛇の如き大行軍は、愛國第一號機を先頭とする偵察機、爆撃機、戰闘機〇〇臺を以てする編隊空軍の雄姿と相俟つて空前の盛觀を呈した。寫眞右下は曠寛たる北滿の大平原を**ハルビン**に向つて進撃する我戰車隊、左上はその入場式である。

あすをも知らぬ勇士の身だしなみ

強勇を誇る上海の第十九路軍は我海軍陸戰隊の寡兵を以てする攻撃力手薄しと見るや漸次傲慢無禮となり、加ふるに蔣介石麾下の軍隊着々增援せらるゝあり、事態日を趁ふて急迫の度を增し來つた爲め、我が軍部は斷乎陸兵派遣を決意し、植田中將の率ゆる金澤第九師團は踊躍宇品を發航して二月十四日上海に上陸、夫々の部署に就いた。かくて我方より彼れに對し一應上海撤退の要求を提出したるも、皇軍の實力を認識せずして徒らに心驕れる支那軍は愚かにも是に應ぜざりし爲め、陸軍の精銳は斷然起つて敵を掃蕩することとなり、二月二十日全軍一時に總攻撃を開始した。寫眞は金澤師團の勇士等、あすの戰場に屍を晒すも圖られず、見苦しき姿を殘すは末代までの恥なりと、或者は水甕の風呂に浸り、或者は頭髮の手入れをなし、寸刻に迫る決死の門出を朗らかな笑ひを以て迎へつゝある有樣である。





上海に於ける我陸戰隊最後の猛撃



我が海軍陸戰隊の上海に於ける奮鬪振りは實に涙ぐましいものがある。即ち彼等は去る一月下旬事變突發以來戰線に立ち、或は土嚢陣地に、或は崩壞せる家屋を楯として、居留民保護の爲め暴慢無禮なる而も味方に幾十倍する大敵と相對峙し、惡戰苦鬪、戰史に稀なる市街戰に豫期以上の效果を收めたのであつたが、二月中旬、敵の増援部隊益々加はり事態愈々險惡の度を増したので遂に陸軍の出動を見るに至り、海軍陸戰隊は、二月十六日を以てその主要なる陣地を陸軍の精鋭に讓つたが、是に先立ち陸戰隊は二月十五日閘北方面の敵に對し最後の猛撃を浴せることとなり、山砲、野砲のつるべ撃にさしもの敵を震駭せした。寫眞は即ちその日の奮鬪ぶりである。

高射砲の活躍

二月二十日我軍上海に於て總攻撃を開始するや、支那軍亦頑強に抵抗し若干の敵飛行機は大膽にも上空に現はれたので我が海陸空軍及び高射砲隊は一齊に起つて猛撃を加へ忽ち是を遁走せしめた。寫眞は引翔港附近に陣地を構へて敵機を待てる我が高射機關銃隊である



我陸軍の上海上陸

（右上）
上海の形勢日を趁うて險惡の度を加ふるや軍部は斷然陸軍の精鋭を同地に派遣することとなり二月上旬金澤第〇〇團に動員命令下り、同〇團は同月十四日を以て全部上海に上陸した。寫眞は吳淞鐵道機關庫內に勢揃ひしたる我軍野砲隊である









（左下）
戰時編制を以て上海に出動したる金澤第〇〇團は豫て陸軍部內に於て典型的武人として拜崇せられつつある植田中將是に將として二月中旬彼地に上陸、それぞれの部署に就き、同月二十日を以て愈々第一次總攻擊を開始した。寫眞は上海滙山碼頭より同〇團の軍馬を陸揚しつつある光景。





…上海江灣鎮の砲撃…

（左上）十九路軍第一線の重要陣地たる江灣鎮の攻略は我軍の策戰上最も重要なるものであつたが、此附近泥澤溝渠相連り軍の行動甚だ意の如くならず完全に是を占據したのは實に二月二十七日であつた。寫眞は我が砲撃に火災を起しつゝある江灣鎮。





（右下）二月二十日敵の第十九路軍に對し總攻撃の命令下るや我軍の左翼は吳淞鐵道線路の彼方江灣鎮に據れる敵の主力部隊に對し野戰○砲、海軍の山砲、野砲、曲射砲等を以て猛烈なる砲撃を加へた。寫眞は江灣鎮猛撃中の我が○砲隊陣地である。

防彈衣と手榴彈攻擊



（左上）

二月二十日我が前原〇團金澤〇隊の左翼は江灣競馬場の南より、又久我〇隊は競馬場北より迂回し左右より江灣方面の敵に猛擊を加へた爲め、敵は鐵道線路の築堤に依り頑强なる抵抗を試みたが、勇敢なる金澤健兒は遮二無二是に肉薄して遂に江灣鎭の一要地を占領した。寫眞は最前線の金澤部隊が手榴彈を以て猛烈に敵陣地攻擊の有樣である。





（右下）

滿洲事變に引續いての上海事變に際し我が陸軍に於ける各種の新武器は悉く使用せられ絕好なる試驗の機會を與へられた。玆に示した寫眞も亦我が新武具の一なる防彈衣で、是を着用したる兵士等上海市中警備の有樣。

江灣體育場及吳淞戰況





（右下）

二十日午前七時半（日本時間同八時半）植田〇團長より總攻擊の前進命令下るや、各部隊の將士は踴躍して行動を開始し、一時間後、右翼〇〇團の第一線部隊は江灣體育場を占據した。寫眞は同方面に於て勇敢に交戰中の我が機關銃隊である。





（左上）

二月十四日上海に上陸したる我が第〇〇團の精鋭は、海軍と呼應して吳淞鎭の攻略に從事したるが、同方面の敵の部隊は未だ全く陷落に至らざる吳淞砲臺の殘存部隊と共に頑强に我軍に抵抗した。寫眞は吳淞の我陸軍部隊が支那民家の屋上より野砲の命中率を觀測しつつある有樣。



便衣隊を逮捕

上海市内を横行して我軍の行動を妨害し又は敵軍にスパイの役をなす便衣隊はその數甚だ多く、我軍に於ては常に此の便衣隊狩に腐心してゐるのである。寫眞は今しも陸戰隊が一人の便衣隊員を發見し、有無を言はさず引捕へ引致せんとしつつある有樣

トーキー撮影

日支事變に際し、陸海軍を始め、各新聞社及び内外映畫會社の活動寫眞班又はトーキームーヴィー隊の活躍は實に目覺しいものがあつて、一々是を撮影し、絶好の永久的記念映畫を作製しつゝあるのである。寫眞は上海江灣鎮に於て我軍の爲めに爆擊され火災を起しつゝある支那民家を撮影中のトーキー・ムーヴィー隊である。



ズックの舟と人力車

（左上）

戰線の後方に於て最も敏活果敢なる行動を要するものは食糧品及び軍用品の運搬供給である。上海方面には多くの支那人力車があるので我軍は早速是等を徵發して軍用品の運搬に使用して大に效果を擧げてゐる。寫眞は卽ちその珍風景。







（右下）

目下我軍の活躍しつゝある吳淞鎭より江灣鎭、廟行鎭及び大場鎭方面は溝渠縱横に通じて是に橋梁なく、軍の行動に一大障害をなしてゐる。寫眞は我軍がズック製の舟を以て吳淞方面の敵前渡河を敢行しつゝある光景。



戰車隊の江灣突擊

（右下）

上海の閘北、北停車場方面に於ける敵は既に我が陸戰隊の活躍に依り掃蕩せられたる筈なるも、屢々機を見て逆襲し來るので、我陸軍の上海出動後は海陸兩兵共同して油斷なく此の方面の警備に任じてゐるのである。寫眞は卽ち其光景









（左上）

皇軍總攻擊第一日の最激地江灣鎭の攻略戰に活躍した戰車隊の勇猛果敢振りは實に目覺ましいもので、隊長重見大尉の率ゆる一隊の戰車は敵彈雨飛の中を縱橫無盡に馳け廻り、敵の防禦陣地を蹂躪して味方の進擊を容易ならしめた。寫眞は卽ち活躍中の我が戰車隊。

皇軍のハルビン入城

一月下旬に至りハルビンに於ては丁超の統率する反吉林聯合軍漸く跳梁し始め、形勢次第に惡化すると共に多數の在留邦人は孰れも危險に曝さるる有樣となつたので、長春駐屯の我部隊は一月二十八日より長谷部○團を先發として多門中將の第○○團續々出動したが東支鐵道南部線列車不通の爲め、進軍極めて困難を極めたるも、而も我軍は踊躍前進し、二月三日双城堡の激戰に敵を潰走せしめ同五日ハルビン郊外の戰闘に大勝を博し、同日午後多門○團長を先頭に我軍は堂々ハ







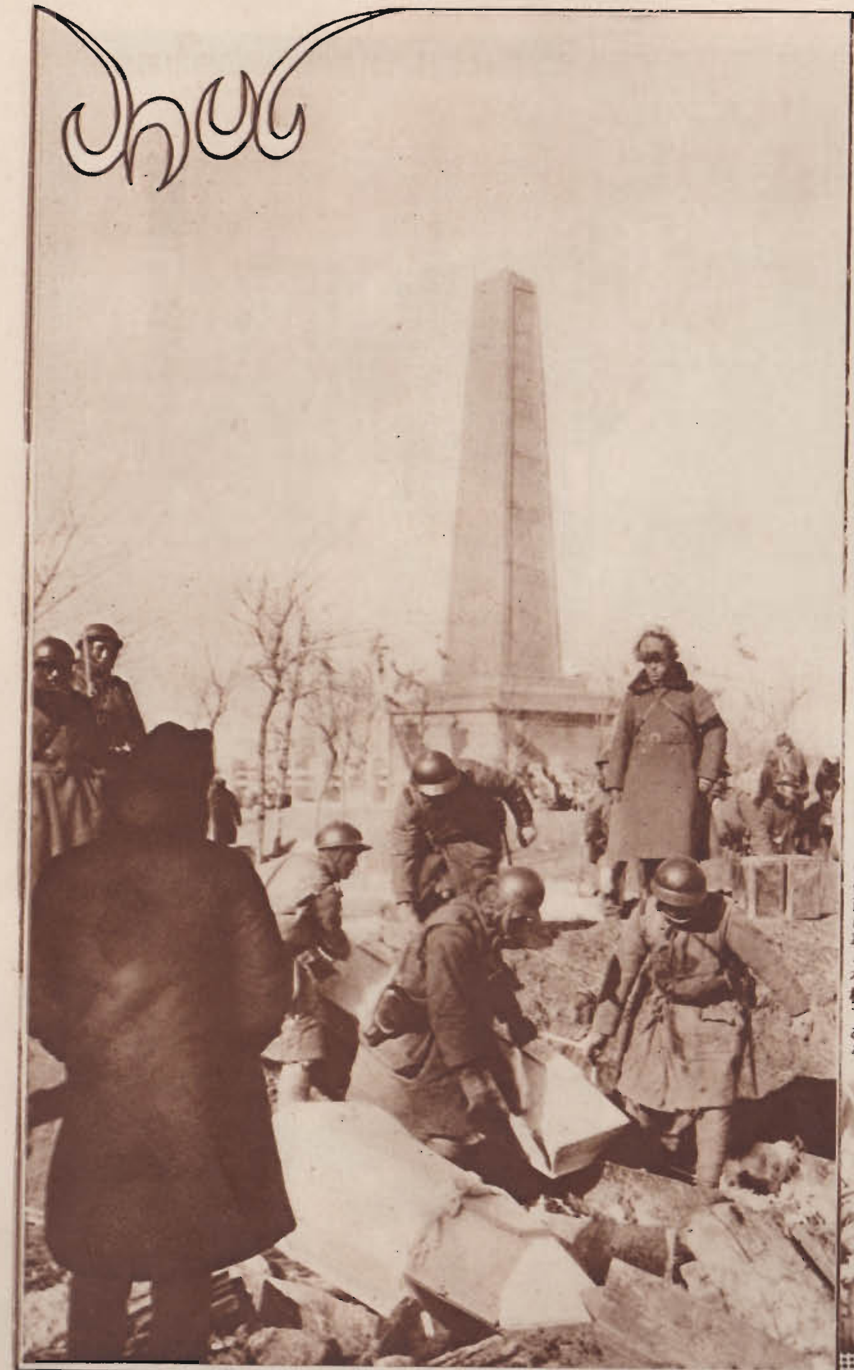




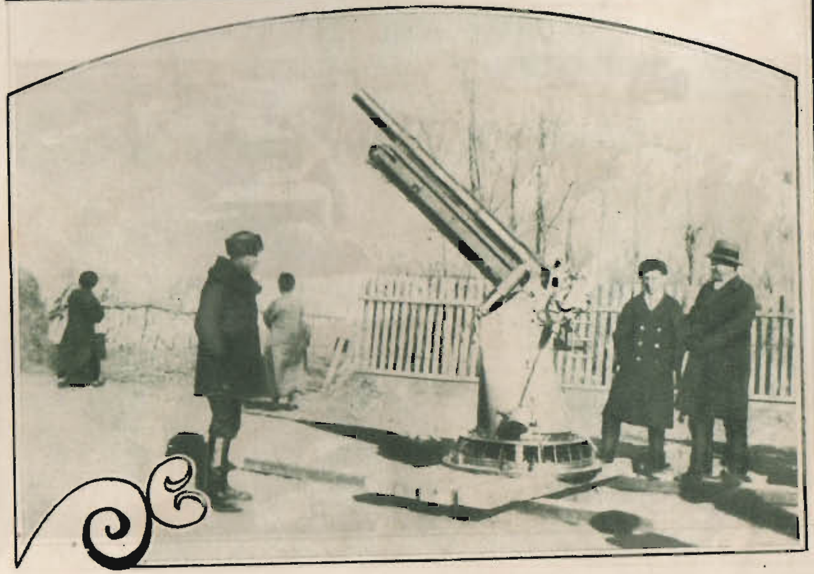


ルビンに入城した。寫眞前の頁の右は一月二十七日ハルビン郊外に不時着陸し敵の襲撃を蒙り奮戦遂に無念の最後を遂げたる長春飛行隊清水潔中尉。左上は二月五日の戦ひに負傷したる兵士。同下は前進中の多門○團。後の頁の右上ハルビン居留民の皇軍歡迎。同下戦車隊の進軍。左は我戦死者を沖横川輛勇士の碑前に葬る有様である。











…滿洲に活躍する支那軍…

寫眞は孰れも滿洲方面に於ける支那軍活躍の狀況を示せるもので、前の頁の左上は去る一月九日錦州方面に於て古賀聯隊長の戰死當時、我軍を惱ましたる錦州敗殘兵の塹壕に據つて奮鬪しつゝある有樣。右下は支那軍の機關銃隊。左下は**ハルビン**方面に於て我が空軍を射









撃したる高射砲で[illegible]が操縦者は見る通り支那兵ではない。又後の頁の右上は東支鐵道南部線蔡家溝に不時着陸したる我偵察機を支那軍が破壊したる有様。同下は昨年末北寧線に於て我軍を惱まし板倉大尉を戰死せしめたる敵の裝甲列車「中山第二號」が錦州を撤退せんとするところ。左上は丁超の反吉林軍が我軍と交戰中の光景である



上海に奮鬪する支那軍

上海に於て我が陸軍部隊及び海軍陸戰隊に抵抗奮鬪しつつある支那軍は、滿洲方面のそれとは異り割合ひに士氣旺盛にして訓練行き屆き比較的優秀の武器を擁し而も斷然地の利を得て却々頑强に戰つてゐる。寫眞前の頁の右下は上海市内の燒跡に頑張り手榴彈を投せんとする支那兵













左上は上海郊外の第一線に於て塹壕構築中の支那兵。同下は我が飛行機を射撃せんとしつあ る高射機關銃隊。後の頁の右上は閘北方面に於て我が前線部隊と最も接近せる敵の戰線。同下も同上。又左は雨傘を翳し土嚢の胸壁に據りて呑氣に應戰しつつある閘北方面の支那兵である



尼僧等の活躍

二月十二日の朝、上海に於ける彼我兩軍の休戦時間を利し上海義勇軍のベル大佐令嬢及びフランス尼僧等十三名は閘北戦線に殘留する非戦闘員救出班を組織し、赤十旗を先頭に支那街に入り、無法なる便衣隊の狙撃を物ともせず支那婦女子其他無辜の非戦闘員二十數名を救出した。寫真は即ち當日の活躍振りである

◇◇◇ 周家宅に於て敵の隱れ家を燒拂ふ ◇◇◇



江灣鎮の攻撃に出動する我戰車隊

二月二十日皇軍の上海總攻擊第一日の最激戰地たる江灣鎮方面の攻略戰に於て我が戰車隊の勇猛果敢ぶりは實に目覺ましきものがあつた。此日戰車隊長重見伊三雄大尉は自ら一臺の戰車內に在り砲彈銃丸點々雨の如く集注する中を邁二無二江灣鎮內に突入して縱橫無盡に驅け廻り、片端から敵の防禦陣地を蹂躙して友軍の江灣占據を容易ならしめたので、前原○團長は同大尉以下部隊の勇士に感狀を送つた。此の殊勳者戰車隊は去る大正十四年金澤師團に設置せられ重見大尉の統率下に大小○人乘○○臺が上海閘北及び江灣戰線に活躍したので全車隊は綠、茶、青の三色に塗りかためられ、ぎい〳〵と底氣味惡い重音を立てながら機關銃、野砲を猛射しつつ塹壕は愚か鐵條網其他あらゆる障害物を踏みにぢり敵陣地を我物顔に荒し廻るさまは實に怖ろしくも亦物凄い怪物の跳梁である。寫眞は二月二十日我戰車隊續々戰場に出動せんとするところである。



江下武次君　北川丞君　作江伊之助君

噫、壯烈爆彈三勇士







二月二十二日下元少將麾下の混成旅團は午前五時半を期し廟巷鎭の敵陣地を奪取する方針の下に行動を開始したが、敵は堅固なる防禦陣地の前に深さ四**メートル**、高さ三**メートル**の鐵條網を張りめぐらして頑强に抵抗し果然我軍苦戰に陥つた

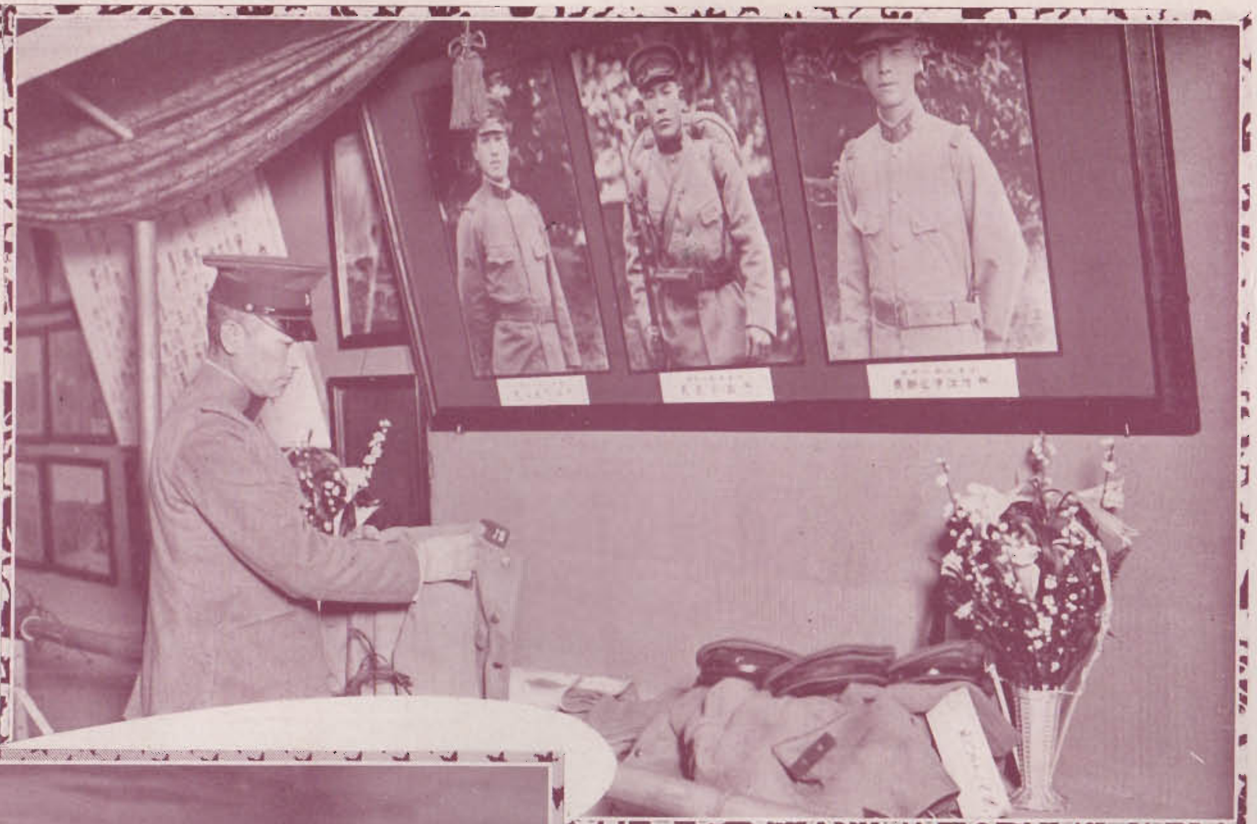


廟巷鎭三勇士最期の地點附近



廟巷鎭總攻擊に向ふ我軍

ので、此の戰況に業を煮やした工兵第〇〇〇隊第〇〇隊の一等兵江下武次、北川丞、作江伊之助の三名は遂に意を決し自らの生命を以て此の難攻の鐵條網を爆破するに如かずとなし割竹を以て急造したる直徑三寸長さ四**メートル**の破壞筒に點火したる儘三人にて搔き抱き猛然鐵條網中に突進すると共に轟然たる大音響と共に爆藥は破裂し、三人の勇士は文字通り木葉微塵に粉粹されて壯烈悲壯言語に絕する最期を遂げたが此の尊き犧牲に依り忽然として幅十**メートル**の突擊路は開鑿せられ、全軍踴躍敵陣地に躍り込み忽ち廟巷鎭の一角を占領した。三勇士が此の壯絕無比の行動は實に世界に類なき大和魂の精華として全日本は愚か世界の各地に傳へられ、古今の戰史上空前の壯擧と謳はれた。寫眞は三勇士の面影及び三月明治座の狂言に上演せられたる『三勇士』の舞臺面である。



歌舞伎座に陳列されたる三勇士遺品



廟巷鎭附近敵の鐵條網



明治座三月狂言『三勇士』

上海戰場に於ける我陸海軍の主腦者



下元混成旅團長、敵狀報告を聞く



第九師團長植田中將

寫眞前の頁の右は金澤第九師團長植田中將である。該師團は上海の事態愈々急を告ぐるに至りたる二月上旬原隊を出發、數船團に分れ二月十日頃より內地港灣を出發、同十四日より上海に上陸を開始し同十六日是を完了、陸戰隊と交代して租界內の警備に任ずると共に、同月二十日愈々第一次の總攻擊を開始し、三月三日南翔嘉定占據、停戰命令に至るまで上海派遣軍の主力として奮鬪偉勳を樹てたのである。尙植田師團長は陸軍部內稀に見る武將の典型として尊敬せられつつある人である。左上は上海に於て第九師團長の隷下に入り軍の右翼に在て常に勇猛果敢なる戰鬪を續け、かの爆彈三勇士を出して遺憾なく九州男兒の精悍振りを發揮したる久留米第十二師團の混成旅團長下元少將が、廟巷鎭方面の戰線に於て松下工兵大尉の敵

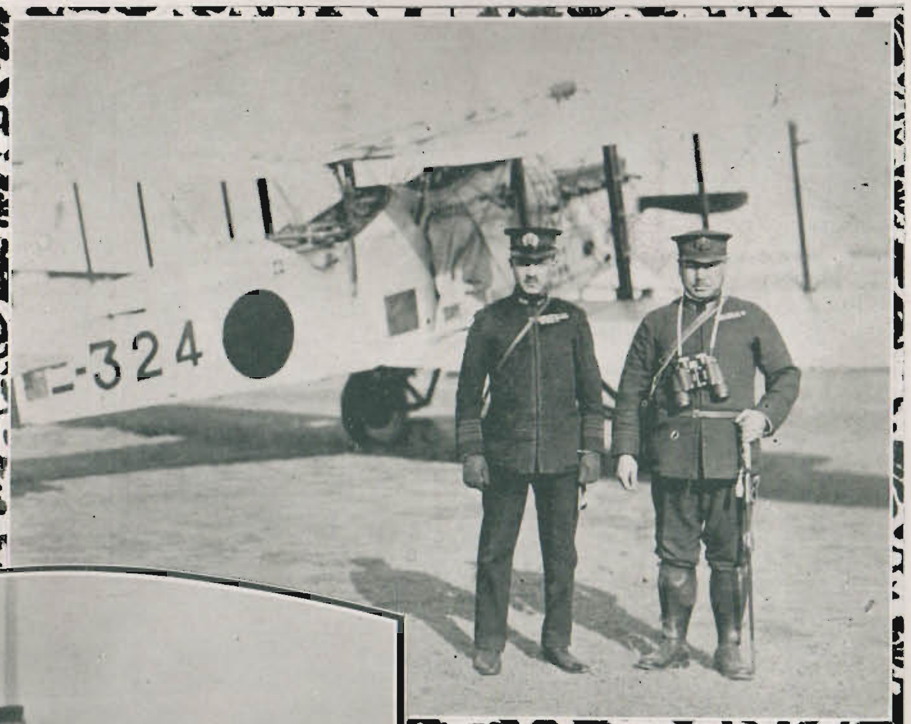


幕僚と共に晝食中の小野旅團長



上海派遣軍司令官白川義則大將

狀報告を聽きつつあるところ。又同下は植田第九師團長の麾下に屬し江灣鎭鐵道以北の頑強なる敵に對し猛攻撃を加へ同地の占據を速かならしめたる小野旅團長が幕僚と共に晝食を認めつつある有樣。後の頁の右上は上海戰勝の功績その三分までは海軍航空隊の活躍に在りと稱せらるるその航空隊司令官加藤少將(左)と前進部隊指揮官大野中佐(右)である。同下は上海に於ける形勢惡化に伴ひ



海軍航空隊司令官加藤少將と同指揮官大野中佐

第一水雷戰隊司令官より轉じて第三艦隊附となり鮫島大佐に代つて陸戰隊長となり常に自ら第一線に立つて活躍、列强軍環視の中に在つて勇名を轟かしたる剛膽類なき植松練磨少將中央は旗艦『出雲』の後甲板より上海の戰況を視察しつつある野村第三艦隊司令長官。又左は二月下旬上海派遣軍司令官に任ぜられ三月一日吳淞に上陸、總攻撃指揮を執ることとなつた白川大將である



旗艦『出雲』上の野村第三艦隊司令長官



海軍陸戰隊指揮官植松少將

彼我戰死者の收容と負傷者手當

去る一月末、我が上海に於ける海軍陸戰隊が支那側の暴戻に對し遂に堪忍袋の緒を切つて以來、約一ヶ月に近き市街戰から二月二十日陸海軍共同作戰の下に開始せられたる總攻撃に續き三月三日我が軍司令官及び艦隊司令長官の停戰命令に至るまで殆ど寧日なき戰闘に於て陸海軍の死傷者中陸軍は戰死百八十八名、負傷者一千三百八十七名、海軍は戰死百三十二名、負傷六百七十八名に上り、敵の死傷は約三萬五千と註せられた。寫眞の右上は支那軍の戰死者收容左下は我陸軍の戰死者を赤十字隊が後送しつつある有樣。左上は閘北の市街戰に傷つける海軍の一下士に應急手當を施しつつある光景で孰れも強く我等の胸を搏つものがある



支那兵の戰死者收容



市街戰に傷つける川瀬一等兵の手當



赤十字隊、我が戰死者を戰場より運び出す

林聯隊長戰死す



在りし日の林聯隊長（中央脫帽）



戰死前日の林聯隊長

三月一日我軍の第三次總攻撃に於て第九師團第○聯隊長林大八大佐は、江灣鎭西方の敵陣地を奪取すべく午前十一時三十分、敵前三百米突の地點に於て栗原少尉の捧ぐる聯隊旗に續き、三代相傳の銘刀左文字筆光を拔き放ち、部下を振返りつつ『突込め〳〵』と突撃號令を下し躍進中、敵彈飛び來つて腹部に命中、貫通創を蒙り、直ちに繃帶所に收容、手當の甲斐なく午後一時遂に絕命した。寫眞の右上は二月二十一日の戰鬪に於て收容されたる部下の戰死者に對し自ら淚の禮拜をなしつつある林大佐。同下は重傷五分後林大佐に手當しつつある有樣。左は戰死前日の林大佐である



重傷五分後手當を受けつつあるところ



我軍の上陸したる揚林口附近に於ける敵の塹壕



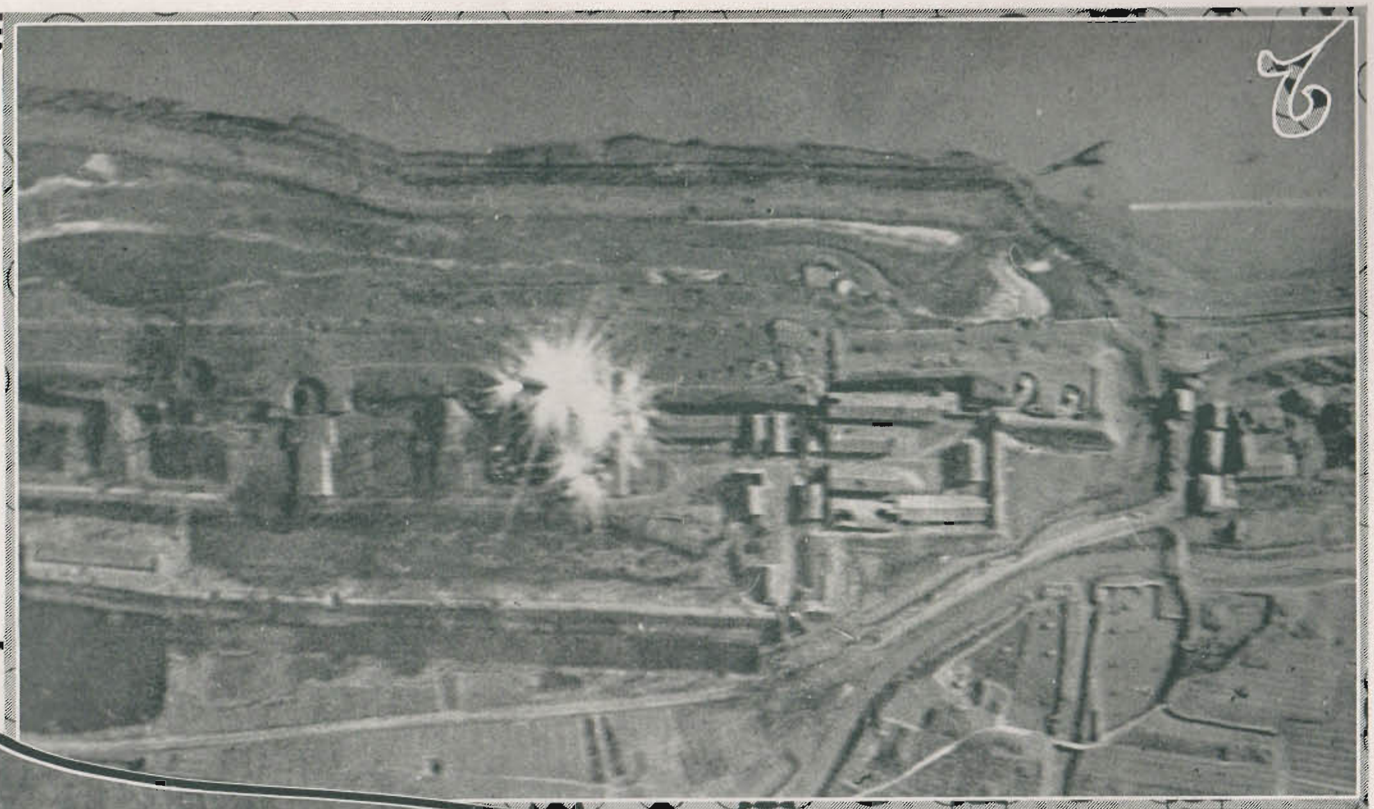
我軍上陸地點七了口の敵陣地爆撃



機上より煙幕を展開して我軍の敵前上陸を隱蔽す

海軍航空隊の偉勳

上海事件勃發以來、我海軍航空隊の活躍は目覺ましきものあり殊に二月二十日總攻撃開始以來陸軍の進出を容易ならしめたその功績は實に多大なるもので、上海戰勝の功勞その三分は擧げて海軍航空隊の有に歸せしむべきであると謂はれ、空中戰及び爆撃の手並は正に世界第一の折紙を附くるに足ると稱せられ、吳淞獅子林兩砲塞を始め江灣、閘北等の敵陣地を潰滅に歸せしめ、蘇州及び杭州の敵飛行隊本據を襲撃して完全に是を撃滅したる偉勳は長く戰史に光を放つものと謂ふべきである。寫眞は執れも海軍航空隊活躍の跡を空中より俯瞰したもので、前の眞の右上は三月一日我が第十一師團の上陸したる

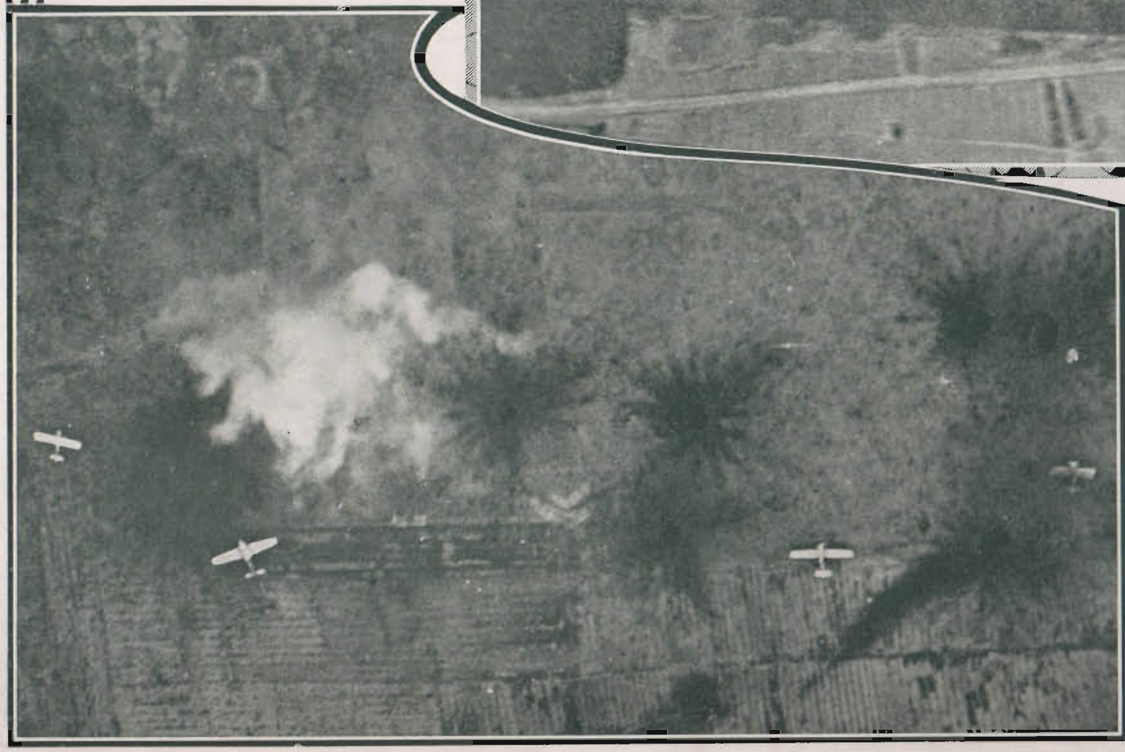


獅子林砲臺爆撃刹那の壯觀

揚子江岸揚林口附近の敵の塹壕で、我航空隊の爲めに爆撃されたるもの。左上同師團の七丁口上陸を援護して海軍航空隊空中より敵陣地爆撃の光景。同下は同地に於ける陸兵の敵前上陸を援護する爲め航空隊の飛行機が煙幕を展開して味方を隱蔽しつつある有様で前方海面上に白い土手の如く見ゆるものは卽ち煙幕。又後の頁の右上は呉淞砲臺の一部なる獅子林砲臺に對し爆彈投下の瞬間を撮影したるもの。同下は三月一日江灣鎭西方の敵塹壕に海軍機の爆彈命中の光景。左は二月二十六日杭州敵飛行機根據地襲撃の壯觀で地上に在るは孰れも敵の飛行機である



江灣鎭西方の敵陣地に海軍機の爆彈命中す



杭州に於ける敵の空軍根據地の爆撃

皇軍の連戰連勝



二月二十七日林聯隊江灣鎭を占據す



我軍の鹵獲したる米國製の新式步兵銃

第九師團長植田中將は上海上陸と共に平和解決の目的を以て支那軍と交渉を開始したるも支那側は是を一笑に附し去りたるを以て二月十八日愈々最後通牒を發したが彼は微塵も誠意を示さざる爲め、同師團長は二十日早朝より作戰行動の開始を命し、茲に第一次總攻撃を行つたのである。かくて此の攻撃は二十二日まで連續して多くの敵陣地を奪取したが就中、江灣鎭、廟巷鎭の戰闘最も激烈を極めかの爆彈三勇士を始め多くの犧牲者を出したのは誠に遺憾な極みであつた。然るに敵は更に大部隊增援の模様なる爲め我が軍部も更に增兵に決し白川義則大將軍司令官に任ぜられ第十一師團出動上海に向ひ、同時に第九師團は二十三日より、第二次總



江灣鎭附近、我が戰車隊の躍進振り



軍旗を先頭に酒匂聯隊の進擊



江灣鎭より更に前進する我軍

攻擊に移り二十七日江灣鎭を完全に占據すると共に三月一日白川大將は第三次總攻擊を命じ、新着の第十一師團又是に馳せ參じて敵を三方より猛擊、廟巷鎭、大場鎭、眞茹、其他の主要陣地を疾風迅雷的に奪取し三月三日遂に我軍は南翔より嘉定を占據して、一先づ玆に戰局の終結を見るに至つた。寫眞は我軍の奮戰振である



塹壕内にて我軍の晝食

第○聯隊の本部出發



車窓の涙ぐましき一情景





愛妻より首途の祝盃を受くる青年將校

征途に上る我が勇士

上海の形勢日を逐うて險惡の度を加へ來つたので二月二日廟議一決陸軍を同地に派遣し海軍と協力して邦人の保護及び我權益の確保に任ぜしむることとなり、某々師團相次いで出動したが、それ等の地方に於ては出征部隊の歡送其他に日夜異常の混雜盛觀を呈し戰時氣分横溢して勇士の面上孰れも盡忠報國の赤誠に燃えた。寫眞の右上見送りの妻の手から笑つて愛兒を抱き取つた車窓の涙ぐましき一情景。中上第○○聯隊の本部出發。同上○○○團の○○築港桟橋乘船左上愛妻より首途の祝盃を受くる青年將校である



第○○團の○○築港桟橋乘船

聯盟會議の我が代表佐藤大使





圓卓會議の開かるるケント號上より上海バンドを望む

上海事變と列國

上海は東洋第一の國際都市であるだけに其地に於ける日支兩國の交戰は各關係列國に異常の衝動と昂奮とを與へたのはいふまでもなく、聯盟理事會は三月三日よりジユネーヴに總會を開催して前後策を講ずる一方、上海碇舶中の英國巡洋艦『ケント號』上に於て圓卓會議を開くこととなり、聯盟側の上海現地調査委員一行は二月二十九日上海へ向ふ途上、東京に立寄り、政府要路の大官連と會見種々懇談するところあり、一方ジユネーヴの聯盟總會に於ては我が代表佐藤大使對支那代表顏慶惠氏との論戰猛烈を極め此項締切までには上海事變對國際聯盟の成行きは全く豫斷を許さず形勢甚だ樂觀し能はざるものがあつた



來朝したる聯盟支那調査委員



支那代表顏慶惠氏

奉天城壁の建國宣傳



張學良の壓制と搾取及び南京政權の暴戾に完膚なきまで責めさいなまれたる滿蒙三千萬の民衆が、一日千秋の思ひを以て待望したる新國家創成の機運は刻々進展して愈々三月九日新都長春に於て溥儀氏の執政就任式擧行せられ、新國家『大滿洲國』はかくて完全に成立を告ぐることとなつた。昨昭和六年九月十八日の深更突如として勃發したる奉天柳條溝に於け



執政就任式を祝ふ奉天大通りの大アーチ



新國家建設促進運動のデモ振り

極東平和の樂土
大滿洲國の創建



に制定されたる大滿洲國旗



執政就任式を擧行したる長春市政公所

る日支兩軍衝突以來、光輝ある皇軍の武威に、暴戻非道なる東北軍閥が心地よきまで粉砕せらるるや自主獨立要望の聲は忽ち全滿洲をどよもし爾來僅かに半歳、早くも此の東亞の新天地に平和の樂土の創成を見るに至りたるは是が第一の善隣たる帝國として又何物にも換へ難き歡びである。寫眞前の頁の右は三月九日執政就任式を前にして奉天大通りに建てられたる大**アーチ**中上は奉天城の大城壁に張り出されたる建國宣傳。同下二月二十七日より奉天に於て擧行せられたる新國家建設促進運動大會に於ける支那青年達の趣向を凝らした**デモ**振り。後の頁の

右上は三月九日執政就任式を擧行したる長春市政公所。左上は新制定の大滿洲國旗。同下は奉天城内新國家促進運動大會の賑ひである。因に三月九日執政就任式の當日溥儀氏は**モーニング**委に焦茶の**ネクタイ**、眞珠の**ピン**、色眼鏡をかけて端然設けの席に就き、天晴れ新國家の元首たるに恥ぢない堂々たる態度であつた。



新國家促進運動大會の賑ひ

時事寫眞小景

スケート場開場式の久邇宮兩宮殿下



買人小布施新三郎氏の飛行機献納式で右は小磯陸軍次官左は小布施氏。（左上）三月五日赤坂山王會館**スケート**場開場式に於ける久邇宮同妃兩殿下の**スケート**振り。**（同下）**錦西の匪賊討伐中、悲壯なる戰死を遂げたる古賀騎兵聯隊長未亡人の東京入りである



兇手に倒れたる故團男の遺骸



日支事變戰死者及軍馬慰靈の觀音像

（右上）東京本鄉駒込なる大圓寺に安置せらるる滿蒙上海事件戰死者軍馬の靈を慰むる爲めの不空羂索觀音像で高さ九尺、作者は山本瑞雲氏。**（中上）**三月五日東京三井本社玄關に於て一兇漢の爲め暗殺せられたる男爵團琢磨氏の遺骸を自邸に送らんとするところ**（同下）**私財二十三萬圓を投じて軍用飛行機三臺を我陸軍に献上したる東京日本橋株式仲



古賀聯隊長未亡人の入京



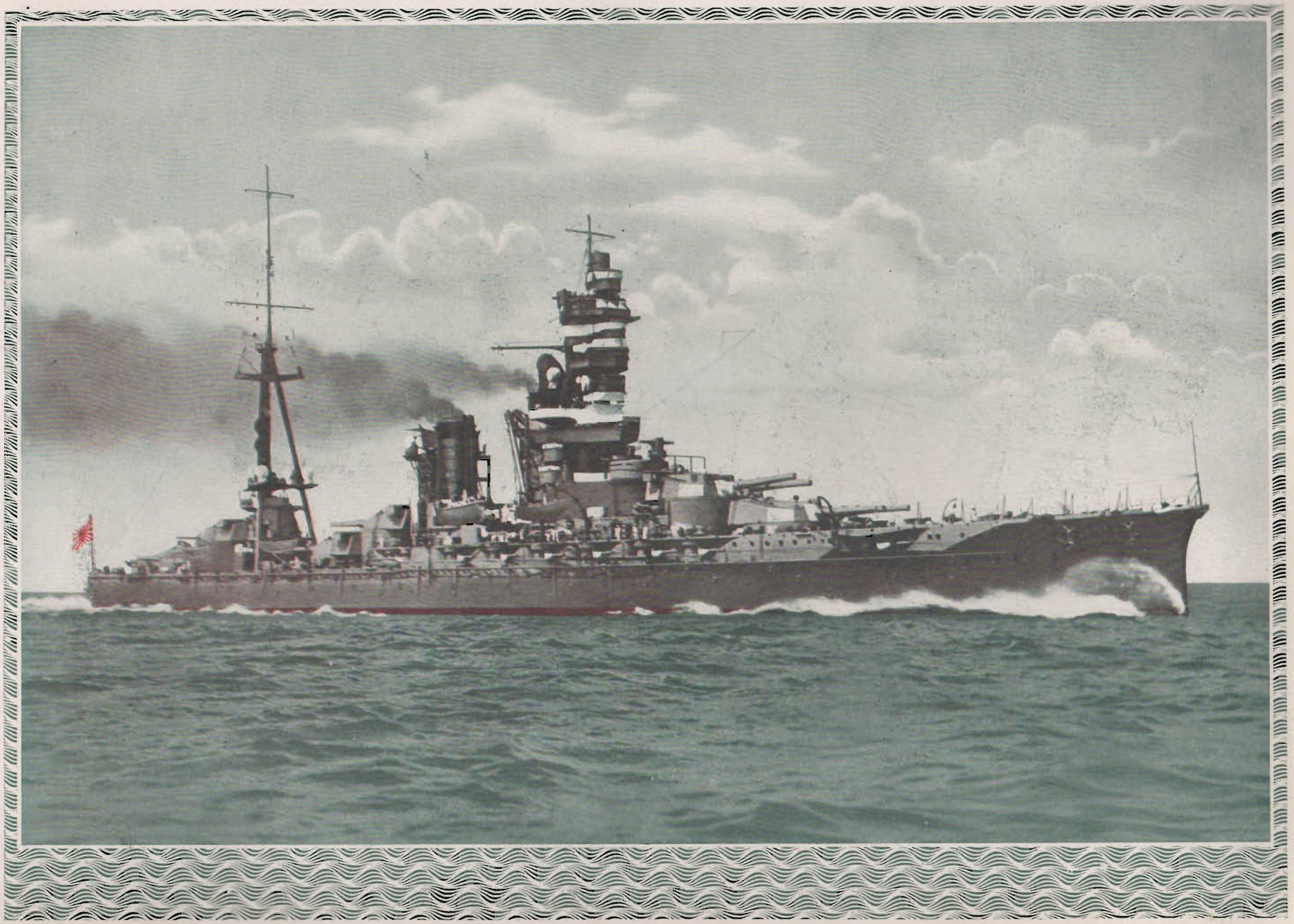
小布施新三郎氏の陸軍飛行機献納式



□□□ 日本誠忠十二鑑 □□□ （其四）『武内宿禰』

（小早川好古畫伯筆）

◆◆◆帝國海軍の偉容◆◆◆戰艦『日向』◆◆◆



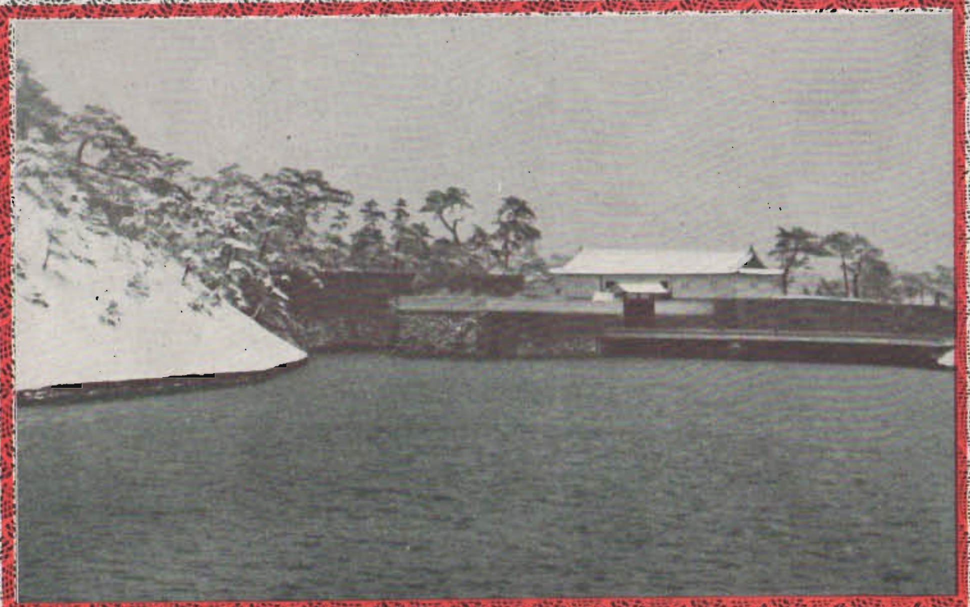
戰艦『日向』は『伊勢』の姉妹艦で排水量は二萬九千九百九十噸、垂線間の長さ百九十五米〇七、最大幅二十八米六十五、平均吃水八米七十四、速力は二十三節、備砲は三十六**サンチ**砲即ち十四吋砲十二門、十四**サンチ**砲二十門、八**サンチ**高角砲四門、機關銃三門、水雷發射管八門を裝備してゐる。同艦は大正四年五月三菱長崎造船所に於て起工せられ同六年一月進水、七年四月竣工を告げたるもの『陸奥』『長門』に次ぐ巨艦である。さて此の艦の主砲十四吋砲の射程は約六里半、彈量は百七十五貫、一發の價約二千圓と謂はれてゐる。平時の乘員は千三百八十名で、艦隊旗艦たる場合には更に八十名の增員を行ふのである。一日の經費は約二千五百圓、航海中は五千圓を要する。寫眞は即ち『日向』の雄姿である。

◆◆◆時代風俗寫眞小觀◆◆◆（其四）江戸時代初期の花見



陽春三月、萬朶の花が綻びそめると、人々は態々調へた花見小袖を纏ひ花見にと浮かれ出る。或は花下に幕を張り、毛氈を敷き、茶辨當を持出し詩歌を案じ、果は飲めや唄へと管絃舞踊に日の傾くを忘れるもあり、或は花下に風呂桶を持出し花浮ぶ湯に浸つて汗を洗ふもあり、或は又、自藏の妍麗な小袖を小袖幕と言つて縄に掛けて幕に代へ、以てその美を衒ふもあり、折から用意した兵庫樽に編笠を冠せ、衣裳をつけて踊らす樽人形の餘興もあり、家さま〴〵、人とり〴〵、いづれも分に從つて春の一日を飽まで樂しんだものであつた。更にその歸途には反つてさしもの美衣を折ふし降り出した雨に濡らせて歸るのを誇りとしたといふことである。此の寫眞は花か人か小袖幕の中に立てる元祿時代の娘のあでやかさ、今一つは花下に踊らせた樽人形のおもしろさを示したもので、衣服はすべてその時代の遺物である。（風俗研究所長　江馬務）

◆◆◆先哲の面影とその遺跡◆◆◆（其四）井伊直弼

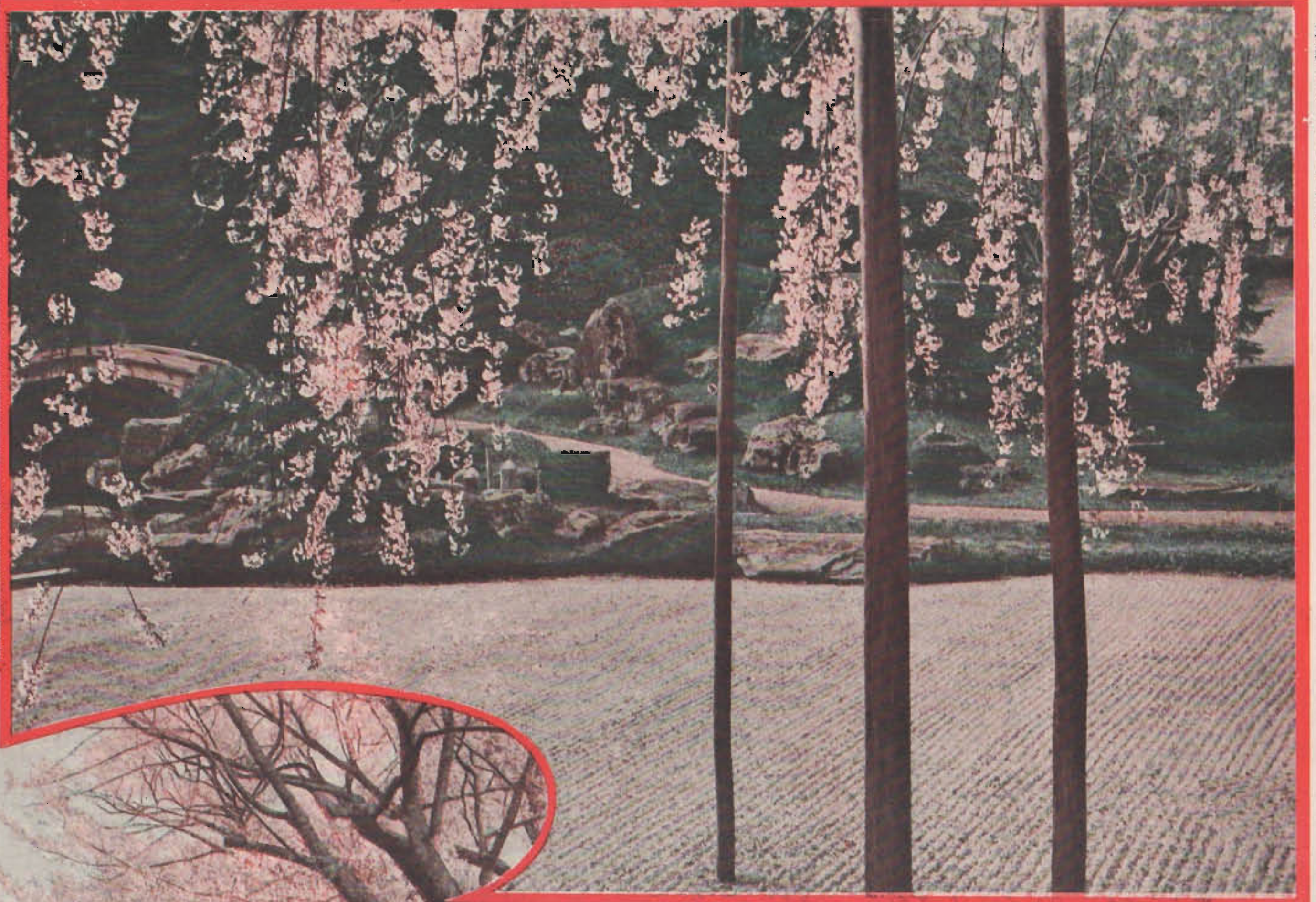






井伊直弼は光格天皇の文化十二年十月近江の彦根城に生れ、長じて同藩主となり掃部頭と稱した。安政五年大老の職に就くや、朝廷の不同意、世論の反對を排して**アメリカ**合衆國と所謂安政の假條約を結んだので、攘夷鎖國論を抱懐する志士は一齊に起つて是を批難攻撃した。偶々將軍家定病篤く後嗣を立つるに及び、直弼は水戸の慶喜を迎ふる說を排斥し紀州より家茂を迎へて十四代の將軍世子となした爲め、外交問題と此の繼嗣問題と絡み合ひ直弼の立場甚だ困難に陷つたので、彼は決然安政の大獄を起し吉田松蔭、梅田雲濱、橋本左内を始め、天下の尊攘鎖國論者を悉く捕へて處刑した。茲に於て志士の憤怒愈々激越し、萬延元年三月節句の日、雪の櫻田門外に於て水戸浪士に襲撃せられその首級を委した。時に年四十六。寫眞は井伊伯爵家に藏する直弼の像、右上は雪に蔽はれた櫻田門、同下は直弼の居城たりし近江彦根城である。

豐太閤醍醐の花見





慶長三年春三月、豐臣秀吉は山城醍醐に於て古今に稀なる大規模の花見の宴を催した。此日秀吉は愛妾淀君を始め天下の諸侯を引具し雲か霞と咲き亂れたる滿山の花の下蔭に歡樂の限りを盡したので、此の大掛りな觀櫻の宴は後の世までの語り草となり幾多の稗史に誌され又演劇に仕組まれてゐる。さて秀吉花見の盛宴を張りたるところは醍醐女人堂の東五丁鎗山のあたりで、此の山一名千疊坦とも稱し、眺望極めて絶佳である。秀吉は女人堂を起點として鎗山の頂に至る沿道兩側に無數の櫻樹を植栽し、林間に亭を設け、數奇屋を建てて一代の榮華を恣にしたのである。寫眞は即ち豐太閤花見の舊蹟であるが、醍醐天皇一千年御遠忌に際し更に此の遺蹟を復興する企てあり、既に附近に櫻樹數萬本を植栽し往時の盛觀を再現することとなつた。

屋上庭園

●號を重ぬる毎に素晴しい出來榮です。事變氣分を以て毎號をどんなに待ちわびることでせう。さて三月號の表紙繪と口繪とは是又永久に殘さるべき記念寫眞です。唯一つ『溝稍子驛頭の元旦』の色刷の色が動いてゐるのは惜しいと思ひます。四月號には廟行鎭に於て戰死した爆彈三勇士の肖像を口繪にして下さい。倚益々本號の素晴しい發展を祈ります。

（京都下鴨　林高峰）

▲（編者）『溝稍子驛頭の元旦』の印刷がずれてゐるといふお話ですが、何萬といふ澤山の中には少し位ゐ動いたのが誤つて混入してゐないとも限りません。充分注意はいたさせてをりますが。それで若し今後もそんなものがありましたら御遠慮なくお送り下さい。お取換へいたします。

●滿洲及上海の彈雨の中に目覺しい活躍をしてゐる皇軍の寫眞を日々の新聞や號外は逸早く報道はして呉れてゐるが、どうもあの不鮮明な磨**ガラス**から覗いてゐるやうな寫眞は閉口だ。此の點わが『歷史寫眞』の鮮明な寫眞は全く難有く、初めて皇軍の奮闘振を見る事が出來る。然しだ、我々は單に軍隊の活動せる寫眞ばかりでは物足りない。後世の人が本誌を見て、今日を充分味ひ得る丈けの編輯を望むのだ。彼の聯盟理事會の痛恨事たる十三對一の決議だつて過去の國史に比ぶれば關ヶ原の合戰よりも**ペルリ**の渡來よりも遙かに事重大だ。願はくばもつと〳〵國際關係の寫眞を出して貰ひたい。なられば近頃の初號ずくめの新聞記事の寫眞でもよい。經濟封鎖問題日米の危機等世界の心臟は高鳴り大和魂は爆發せんとしてゐる。危機だ。編者は國際問題には聊か不感症の感がある。

（京都　香羽仙人）

▲（編者）仙人の御入來はお久し振りですね。仙人のやうな憂國の士が滿洲事變勃發以來一向に姿を見せられなかつたのは聊か意外とするところでしたが、蛇穴を出づるきのふけふの陽氣に催されて、によつこり姿を現はされたのは實に喜ばしい。ところで編者を目して國際問題には不感症だと斷ぜられたのは聊か酷だが一面甚だ痛烈な評語で、やられた私までが溜飲の下る思ひがした。實は編者も全然聯盟理事會や**アメリカ**の態度などに無關心ではゐないのですが、皇軍奮闘の素晴しい現地寫眞のみがあまりに多く机上に集り、糞おもしろくもない毛唐の寄合ひ寫眞など見た目に一向興味がないのでそれらは**ツイ**失敬してしまつたのです。是からは少し手加減いたし不感症の譏りを受けないやうに心掛けませう。

●愈々重大化した日支事變に就ては毎號全力を傾倒して特輯されることを感謝いたします。三月號も亦得難き材料を澤山拜見いたしました。殊に**グラビヤ**版を始め卷頭の色刷口繪の美事さには常に誇りを禁じ得ぬ愉快さがあります。殊に『溝稍子驛頭の元旦』及び『少女の贈る山陵御朱印帖』の二頁は前者は印刷の精巧なると、後者は其の涙ぐましい純情とが嬉しい。表紙繪の『裝甲列車』は材料に於ては滿點であるが類似畫報に比して一ヶ月も遲れた材料を用ひられたことは大なる失態であつた。連載物では『文使ひ』は素敵な出來榮えだ。

（名古屋　黴楠生）

▲（編者）三月號の表紙繪は他の畫報にも使用せられてあるので批難があることと思つてゐました。是は寧ろ偶然の一致で、あの寫眞を表紙繪に選擇し製版に附して既に大半出來上つた頃、圖らずもそれと同一寫眞を表紙繪とする他の事變畫報の發行を見て鳥渡失望したのですが、是は必ずしも私の失態又は不注意といふべきものではなく、某誌の編輯者と私とが、各自の表紙繪の採擇方針に關して偶然にも一致を見たまでのことです。

●小生は歷史寫眞創刊號よりの愛讀者です。今や我忠勇なる將卒は上海に於て破竹の勢ひを以て暴慢無禮なる支那軍を一擧に擊滅しつつあり。來る四月號には此の武威赫々たる皇軍の勇姿や、金澤〇〇團、善通寺〇〇團の戰闘狀況や、白川派遣軍司令官の寫眞を掲せて下さい。場合に依ては臨時增刊の發行を希望す。

（大阪城南　一讀者）

▲（編者）四月號はざつとこんなものです。大體御意に副つてゐるだらうと存じます。

●私は始めての仲間入です。毎號の編輯振には並々ならぬ苦心の跡が偲ばれまして敬服いたしてをります。とりわけ表紙繪及び口繪の歷史畫『日本誠忠十二鑑』は嬉しい限りです。連載寫眞では『先哲の面影』『時代風俗』『百人一首名勝』等私の趣味の上からこよない樂みの一つであります。次ぎには俳句に殘つた名勝を例へば芭蕉行脚の遺跡といふ風に今に殘る名句名所を掲げて頂きたい。又四月號には上海事變に關し支那軍の狀況等も出來るならば二三御掲載を願ひます。

（名古屋　越舟生）

▲（編者）俳句名勝の思ひつきは結構ですが、今は何事も戰爭氣分に壓倒され鳥渡手が出ません。絕好の題材として保留いたしておきます。それから御希望の支那軍の動靜は本號の**グラビヤ**版四頁に亘つて掲載いたしました。

世界日誌

自昭和七年二月六日
至昭和七年三月五日

◇二　月◇

（六日）　航空母艦『能登呂』の爆撃機二臺は舊正月の寒空を衝き上海なる敵陣地の上空に現はれ爆撃を開始すると共に、我野砲陣地も砲門を開き茲に空陸聯合の連續第四回目の激戰を展開したり。

（七日）　政府は上海方面の事態益々急迫するに鑑み、居留民現地保護の趣旨を貫徹する爲め同方面に急遽所要の陸兵を派遣することとなり、今曉午前零時聲明を發表して帝國の立場を中外に宣明したり。

（八日）　昨夕上海に於て敵前上陸を敢行し直ちに吳淞鎭の敵に攻擊を開始したる我〇〇〇團は今朝五時より總攻擊を行ひ折柄の雨の中に猛烈に進擊しつつあり。

（九日）　前大藏大臣井上準之助氏は今夜東京本鄕區駒込肴町駒本小學校に於ける民政黨公認候補者駒井重次氏の演說會に應援辯士として出場せんとし、午後七時五十五分頃自動車にて同會場に赴き門前に於て自動車を降立ちたる刹那、一兇漢ピストルを以て同氏を狙擊し、氏は背後より三發を發射され、いづれも致命傷の爲め何等施すべき術なく同八時十三分帝大病院に於て絕命したり。犯人は茨城縣人小沼正（二三）と稱し現場に於て逮捕せらる。

（十日）　ジュネーヴに於ける軍縮會議一般討議第三日たる本日我が全權松平大使は軍縮事業に對する帝國政府の誠意を力說し次で國防上我が特殊性を强調し航空母艦の割當縮少を提議し更に一般艦船に航空機甲板を備ふることを禁止すると共に航空母艦の廢止をも考慮するの用意ある旨を力說したり。

（十一日）　上海なる閘北戰線に殘存する婦女子を主とする非戰鬪員を救出する爲め英國義勇隊ヘル大佐、カトリック敎師ジャツキノ兩氏の提議に基き我が野村第三艦隊司令長官は日本軍の精神とする人道的見地より明十二日午前八時より正午まで四時間の休戰を實現する旨發表したり。

（十二日）　ジュネーヴに於ける支那代表部は本日正式に國際聯盟臨時總會招集を要求したり。

（十三日）　來る二十日全國一齊に擧行せらるべき衆議院議員總選擧の立候補屆出は愈々本日午後十二時を以て締切られたるがその總數七百十四名にして前回の立候補者八百四十二名に比すれば百二十八名の減少なり。

（十四日）　昨夜上海に到着したる我が陸軍第〇〇團主力部隊は本日午前七時より同地碼頭前の廣場に上陸を開始し、正午全軍上陸を終りたるが、居留民の歡激絕頂に達し孰れも泣きながら日の丸の小旗を打振り盛觀を極めたり。

（十五日）　獨逸現大統領ヒンデンブルグ元帥は次期大統領候補たることを承諾し同時に全國民に對し聲明書を發表したり。

（十六日）　滿洲東北四省と內蒙を含む新國家建設の大綱決定の爲め張景惠、熙洽、馬占山、臧式毅、趙欣伯の五巨頭奉天に會合熟議を凝らしたり。

（十七日）　本日の軍事參議官會議に於て各參議官は上海に於ける支那軍の暴戾なる態度に鑑み速戰卽決を主張し省部首腦の善處を要望鞭撻するところありたり。

（十八日）　今夜上海に於ける我が植田第〇〇團長は支那軍に對し最後通牒を發し租界線より二十キロの地點に撤退すること其他を要求し若し是を容認せざる時は日本軍は直に自由行動を執るべしと通達したり。

（十九日）　滿蒙新國家獨立問題に關し南京政府の汪兆銘氏は此の叛逆者に對し近く討伐令を發し討伐軍を派遣する旨提言したりと傳へらる。

（二十日）　第六十議會解散の後を受けたる總選擧愈々本日を以て全國一齊に執行せらる。

（廿一日）　上海に於ける支那軍に戰鬪回避の意志なきこと判明したるを以て昨二十日我全軍に總攻擊令發せられ、彼我の戰鬪刻々猛烈の度を加へ來れり。

（廿二日）　今曉上海郊外廟行鎭の攻擊に於て我が下元〇團麾下の工兵第〇〇隊第〇〇隊一等兵北川丞、江下武次、作江伊之助の三名は點火せる爆彈を孰れも己が身體に結びつけ身を挺して深さ四メートルの頑丈なる敵の鐵條網に躍り込み大爆音と共に身體粉碎、同時に鐵條網を破壞して步兵の進擊路を開き忽ち我軍に同地を占據せしめたり。

（廿三日）　這次總選擧に於て政友會大勝、新議員三百六名を獲得し、我議會史上空前の記錄を作りたり。

（廿四日）　滿蒙新國家は國體を立憲共和國として國號は『大滿洲國』元主には宣統帝溥儀氏を推し、首都を長春に置くことに決定す。

（廿五日）　東京に雪降り深さ五寸に及ぶ。蓋し今年最初の大雪なり。

（廿六日）　上海に於ける我が海軍飛行隊の戰鬪〇〇機は遠く抗州飛行場を襲擊し敵機五臺を破壞し更に敵の戰鬪機三臺と壯烈なる空中戰を演じ、その三臺を完全に擊滅墜落せしめ、又更に地上の敵機五臺を破壞し合計十三臺を破壞して悠々母艦に凱旋したり。

（廿七日）　日本航空輸送會社下り郵便旅客機ドルニエーワール飛行艇白鳩號は本日午後三時四十分吹雪の爲め進路を誤り福岡縣八幡市外東河內貯水池附近の山林中に墜落、搭乘者五名中四名卽死し他の一名は八幡病院に收容後死亡したり。

（廿八日）　上海事變突發以來本日までの我軍の死傷者は陸軍戰死百四名、負傷九百七十五名、海軍戰死百二十八名、負傷六百二十五名、總計一千八百名なり。

（廿九日）　ジュネーヴに於ける本日午後の十二ヶ國公開理事會に於てボンクール議長より提議せられたる上海圓卓會議の開催及び戰鬪行爲停止案に對し日支兩國代表夫々是に同意の旨表明したり。

◇三　月◇

（一日）　舊東北四省卽ち奉天、吉林、熱河、黑龍江を打つて一丸となしたる新國家滿洲國は大同元年三月一日を以て完全に成立を告げ、本日その獨立を中外に宣布したり。

（二日）　昨日再び上海方面に於て總攻擊を開始したる我軍は本日正午敵の重要陣地大場鎭を占據し、尙も潰亂の敵を追擊、午後四時半その本據眞茹を奪取したり。

（三日）　猛追擊の我軍は今朝更に南翔を拔き午後三時嘉定に入城すると共に、我が上海派遣軍司令官陸軍大將白川義則氏及び日本第三艦隊司令長官海軍中將野村吉三郞氏は夫々支那軍の無抵抗を條件として戰鬪行動の中止を命じたり。

（四日）　本日午後九時十一分東京市外目白高田馬場兩驛間の鐵道線路上に於て團體列車を見送りつつありたる群衆の中に貨物列車突入し七名を轢殺外に重輕傷者十名を出したり。

（五日）　午前十一時三十分頃三井合名會社理事長男爵團琢磨氏は同本社玄關前に於て自動車より降り立ちたる刹那、茨城縣人菱沼五郞（廿一の）爲めピストルを以て狙擊せられ手當の甲斐なく十數分の後絕命す。犯人現場に於て逮捕せらる。

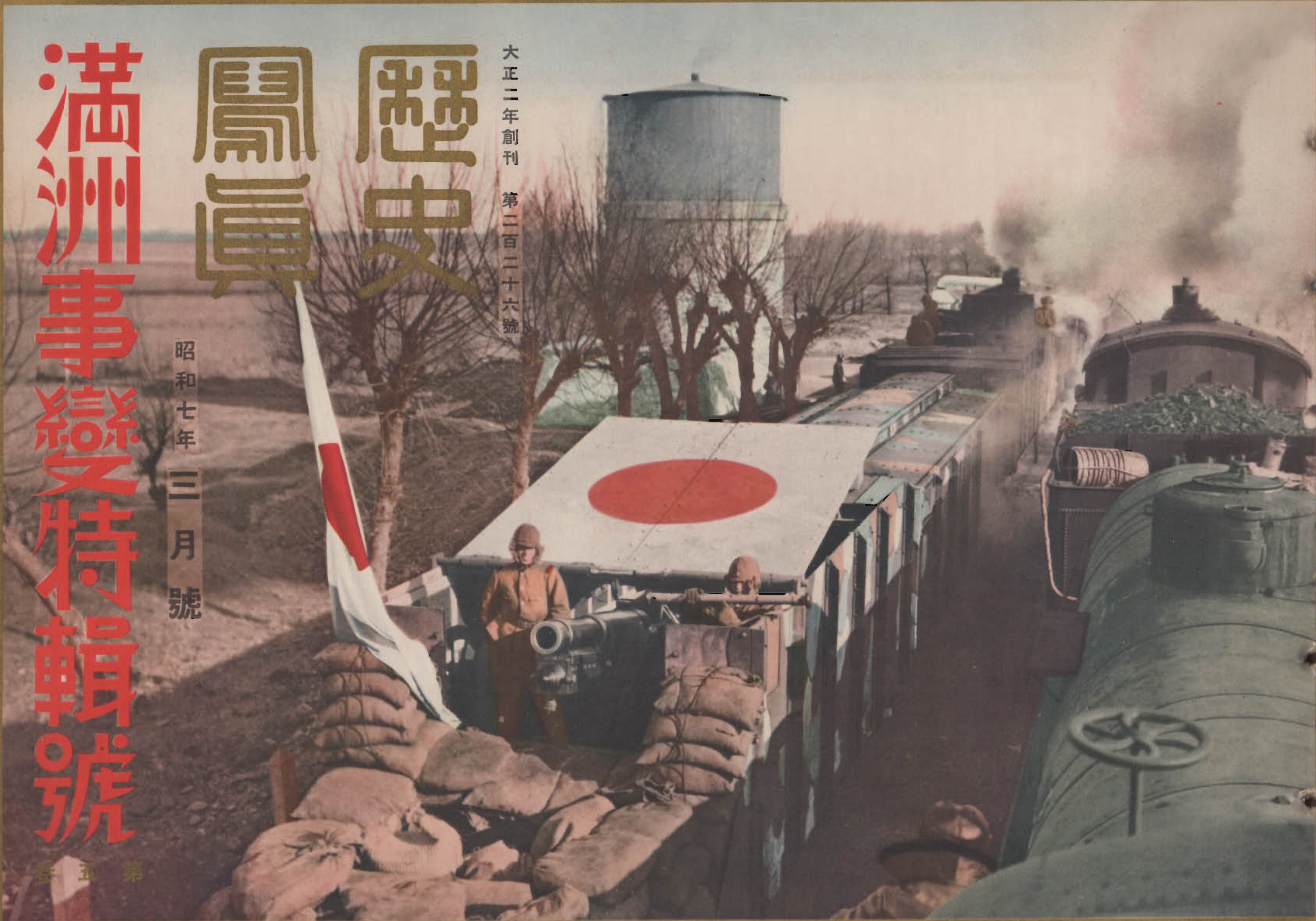
本號に限り定價金六拾錢

歷史寫眞第貳百貳拾七號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年三月二十五日印刷納本
昭和七年四月一日發行

定價送料共一部　金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣　同　金六拾錢
其他外國　同　金八拾錢

編輯發行兼印刷人　東京府下代々幡町笹塚一二三〇　多田鐵雄
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社
發行所　東京市神田區千代田町二八　歷史寫眞會
本誌取扱所

（電話神田六[illegible]七）（振替東京三四八二九）



歷史寫眞

大正二年創刊 第二百二十六號

滿洲事變特輯號

昭和七年三月號

第五巻

歷史寫眞第二百二十六號 昭和七年二月二十五日印刷納本 大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年三月一日發行（每月一回一日發行）

表紙繪と口繪

——表紙繪——

◇我裝甲列車錦州に向ふ

新民、白旗堡より饒陽河、打虎山を經て溝帮子に向ひたる朝鮮〇〇師團の嘉村旅團は途中數個所に於ける鐵橋の爆破個所を神技の如き早業を以て修理前進を續けたが、十二月三十一日午後一時溝帮子前方二キロの鐵橋が完全に爆破されその前方に二輛の貨車を脫線せしめある爲め復舊に手間取り、營口支線に沿ひ前進中の多門師團主力よりも稍々遲れて同日午後三時溝帮子に入城したが、此地もとより敵影のあるなく、爲めに旅團の先鋒部隊は卽日更に錦州に向つて進軍を續くることとなつた。而も皇軍の溝帮子占據に依り遼西兵匪の本據たる錦州の陷落は早や旣に目睫の間に迫り、全軍踴躍意氣天を衝くものがあつた。かくて嘉村旅團の先鋒第一第二裝甲列車及び騎兵の一隊は一月二日午前六時日章旗を朝風に飜しつつ威風堂々錦州に入城した。旅團の入城に當り、錦州民代表は城外まで我軍を出迎へ歡迎の意を表し、民家には所々に日章旗さへ樹てられた。圖は嘉村旅團の裝甲列車が、車上に日の丸の空中標識をおき錦州に向つて前進しつつある光景である。

——口繪——

◇空軍地上勤務班の元旦

朝鮮嘉村旅團は北寧本線を新民より、白旗堡、打虎山を經て溝帮子に向ひ、一方多門師團の主力は北寧線の營口支線を田庄臺、大窪、盤山を經て同じく溝帮子に向ひ兩軍共途中に出沒する兵匪に對し空軍と相呼應して猛烈なる攻擊を加へ十二月三十一日南北兩道より溝帮子に入城したが、此時早く、同地にありたる三千の敵兵は戰ひ利あらずと見て錦州方面に退却し城內には一兵の姿をも見出すことが出來なかつた。かくて軍は一旦同地に全兵力を集結し、一月二日その先鋒部隊は堂々錦州に入城したのである。寫眞は溝帮子に入りたる我空軍の地上勤務班が驛頭に於て雜煮を食して元旦を祝ひつつある有樣である。

◇萬里長城に於ける皇軍

十二月三十日、多門師團及び嘉村旅團の主力が北寧線を南北より溝帮子に迫るや錦州を本據として附近一帶の地に蟠居する五萬を以て算する兵匪の大集團は、我軍に對し到底勝算なきを自覺すると共に翌三十一日より全軍總退却を開始し、豫め錦州驛に備へつけたる二百數十輛の貨車に是等の兵士を滿載して灤州方面に撤退したが、山海關は恰も此の退却兵の通過驛に當るので同方面に於ける我軍は海陸共警備を嚴にし支那軍萬一の暴狀に備ふるところがあつた。寫眞は山海關を守備する我軍の一隊が萬里の長城に於て萬歲を三唱、意氣正に天を呑むの慨を示しつつある光景である。

◇錦州城頭血染の日章旗

一月三日早朝、我軍の裝甲列車が錦州入城後、時を移さず高さ七十尺の錦州城西門に長さ五尺、幅四尺の大日章旗が高々と揭げられた。此の日章旗は朝鮮羅南〇團の依田〇團が滿洲に出動する時、殘留部隊と定まりたる漢口の步兵〇〇聯隊の植田少尉を始め獨身者の中少尉十名が『せめて我等の魂だけでも錦州に運んで貰ひたい』と申合せ左手の指を切り、淨めた茶碗の中に血を絞り出し、直徑二尺の日の丸を描き『是非是に錦州の一番乘りをさせて吳れ』と依賴したその旗で、此朝、裝甲列車に依て錦州に入城した依田〇團〇〇聯隊の白濱中尉が戰友の言葉通り直ちに城門に馳け登り是を揭揚して萬歲を三唱したのであつた。寫眞は卽ちその壯烈なる血染の日章旗を揭げたところである。

◇大遼河を守備する步哨

遼河は南滿洲に於ける第一の大河で交通上に軍事上に重大なる任務を負へる河流である。此の河は每年十二月二十日過ぎに至れば完全に氷結し、野砲、裝甲自動車の如き重量の兵器と雖も容易く氷上を通過せしめ得るのである。故に我軍は是が氷結するのを待ち遼河一帶の地に蟠居する兵匪の大討伐を敢行したので、多門師團の主力と各種の兵器は十二月二十六七日頃より威風堂々氷上を打渡つて錦州方面への前進を開始したのである。寫眞は十二月下旬、結氷したる遼河のほとりに立ちて遙かに淋しく故國の山河を想ひわたる我がなつかしき一人の步哨である。

◇村上義光錦旗を奪還す

（伊藤鷲城畫伯筆）

村上彥四郎義光は南朝の勤王家、信濃の人である。元弘の亂に護良親王に從ひ十津川より吉野に赴く途上、芋瀨庄司が親王の錦旗を得て關塞を通過したので、再び是を奪還し、同三年、吉野城にて北條の大軍に圍まれ城將に陷らんとした時親王に代つて切腹自殺した。圖は義光、芋瀨の卒等を投げ飛ばして錦旗を奪還する有樣である。



□□□ 滿洲事變寫眞 □□□

長城に於ける萬歳

山海關の我守備軍萬里の長城に於て萬歳を三唱す

◇◇◇ 遼河を守る歩哨 ◇◇◇





□□□ 滿洲事變寫眞 □□□

血染の日章旗

錦州城頭に翻へる

[illegible]兵隊の日章旗

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆（其一）本庄室兩將軍の會見



關東軍司令官本庄中將は我軍の新たに占據した錦州及びその附近の狀況を視るべく一月十六日飛行機に搭乘、奉天を出發、錦州の東一里の練兵場に着陸、直ちに自動車にて東門より入城、師團司令部に到着、室師團長と會見したが、室中將は司令官に對し、錦州方面の我が警備狀態、支那側の情勢、錦西、新立屯に於ける戰鬪狀況等に就て詳細報告說明するところあり、終つて兩將軍は師團長宿舍に於て水入らずの歡談を交へ、司令官はその夜寛いだ一夜を過し翌十七日午前九時錦州發の愛國第二號機にて奉天に歸還した。寫眞は本庄司令官錦州入の當日師團司令部に於て室中將との記念撮影に係るもので、右は室師團長、左は本庄司令官である。

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆（其二）山海關海上の警備



十二月三十日盤山を占據したる多門第〇師團と同日打虎山に入城したる嘉村第〇旅團とは翌三十一日、南北相呼應して一擧に溝帮子に入城一旦同地に軍を整備し更に錦州への進擊を開始せんとするや、錦州に於ける支那軍は、日本軍の精銳に對し斷然勝算なきを自覺し、その前衞部隊は數ケ月前より銳意構築しつつありたる大凌河畔の蜒蜿數里に亙る半永久的の塹壕を棄てて錦州に於ける主力部隊と共に三十一日早曉より關內への撤退を開始し、數萬の大軍は多數の軍用列車に搭乘、山海關を經て灤州へ總退却することとなつた。豫て此事あるべきを察知しゐたる我軍は山海關の守備を嚴にすると共にその海上に驅逐艦三隻及び特務艦『能登呂』を浮かべて萬一を警備し、退却軍の態度如何に依ては斷乎猛擊を加ふる氣勢を示した。寫眞は山海關海上警備の我驅逐艦である。

滿洲事變寫眞　（其三）　白雪の曠野を行く擬裝隊



滿洲事變勃發以來三ヶ月、皇軍の治安維持を阻害した錦州の張學良別働隊を一擧に撃滅せんとする我軍は、十二月二十七八日頃より朝鮮第〇〇師團の嘉村旅團は北寧本線より、事變以來各地に轉戰武勳いや高き多門第〇師團の主力は同支線より南北呼應して進擊を開始し隨所の敵を一掃しつつ十二月三十一日兩軍共に溝帮子に入城したが、此時既に敵の全軍三千餘名は客車貨車數十輛に搭乘して錦州方面に退却してゐたので、我軍は刃に血ぬらずして此地を占領し、更に敵の本據錦州への總進擊に移ることとなつたが是より先き騎兵第〇聯隊の主力は先鋒部隊として西方に向て雪の曠野に急迫を續け、同日夕刻早くも大凌河の東岸に到着した。寫眞は滿目白皚々たる雪の野を行く我騎兵が敵の目を晦ますべく人馬共に白布を以て**カモフラージュ**し、今や溝帮子より北寧線に沿ひ錦州方面に行進しつつある光景である。

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆、（其四）少女の贈る山陵御朱印帖



大阪市天王寺第五小學校五年生東村日出子（十一）さんは學校の先生から滿洲事變は國家の大事と聞かされ、子供心にも大いに感奮するところあり、皇軍の武運長久と國威の宣揚とを御歷代天皇の御陵に祈願せんと志し、昨年十一月三日明治節の日に自宅を出發、先づ橿原神宮より神武帝の畝傍山陵を振出しに全國の御陵を參拜し各陵に於て記念の御朱印を戴き一月十九日に多摩御陵及び明治神宮を參拜し漸く百二十三個所の御陵を巡拜し終つたので、日出子さんはその御朱印帖を携へて一月二十日陸軍大臣官邸に荒木陸相を訪問、委細を物語つてその御朱印帖を本庄關東軍司令官に差上げて下さいと申陳べたので、多感の陸相太くも感激し、嬉し淚をぼろ〳〵とこぼしながら、此の貴き贈物を受け納め幾度も御禮の言葉を繰返した。寫眞は官邸の大臣室に於て荒木陸相に御朱印帖を贈つた東村日出子さんである。

上海事變◆◆◆（其一）我が裝甲車隊

上海に於ける抗日、侮日の形勢は日と共に甚だしく遂には我が皇室に對する不敬新聞記事の掲載、帝國海軍の侮辱記事、日蓮宗僧侶の殺傷事件等續發し、是に對する我が軍部其他の要求事項に對して支那側は一も誠意を示すなく却て武力敵對行動の準備を進むるに至つた爲め、同地に於ける我が海軍はその陸戰隊を以て一月二十七日より斷然支那正規軍と戰ひを開始し、寡兵能く敵の大軍を撃破して居留民の安全を保つことが出來た。
寫眞は二月上旬、上海北停車場附近我が第一線に於ける裝甲車隊と陸戰隊の奮闘振である。









上海事變

（其二）傳家の銘刀と便衣隊の逮捕

（右）陸戰隊を指揮する第○中隊長村山中尉が右にピストル、左に傳家の銘刀備前長船をひつ摑んで今や戰線に走せ向はんとする有樣。

（左上）人口三百萬、世界に名だたる國際都市の上海は今や一轉修羅の巷と化し去つた。寫眞はその海岸通り

（同下）支那の正規軍、便衣を着て暴虐を敢てす寫眞は我兵に捕はれたその便衣隊。

上海事變

（其三）

上海及び南京の帝國軍艦と野村司令長官











（上段右） 總領事館前に碇泊中の第一遣外艦隊『安宅』の雄姿。**（同左）** 黄浦碼頭に於ける第一水雷戰隊旗艦『夕張』。**（中段）** 南京に碇泊中の支那軍艦海『容』『逸仙』。**（下段）** 南京警備中の帝國軍艦『平戸』『天龍』『對馬』及び驅逐艦。**（左）** 上海に出動したる新任第〇艦隊司令長官野村海軍中將。

上海事變

（其四）

市内の出火と市中示威行進

（右）一月三十日の晝、北四川路オデオン映畫館附近に於て敵の砲彈落下の爲め火災を起しつゝある有樣。

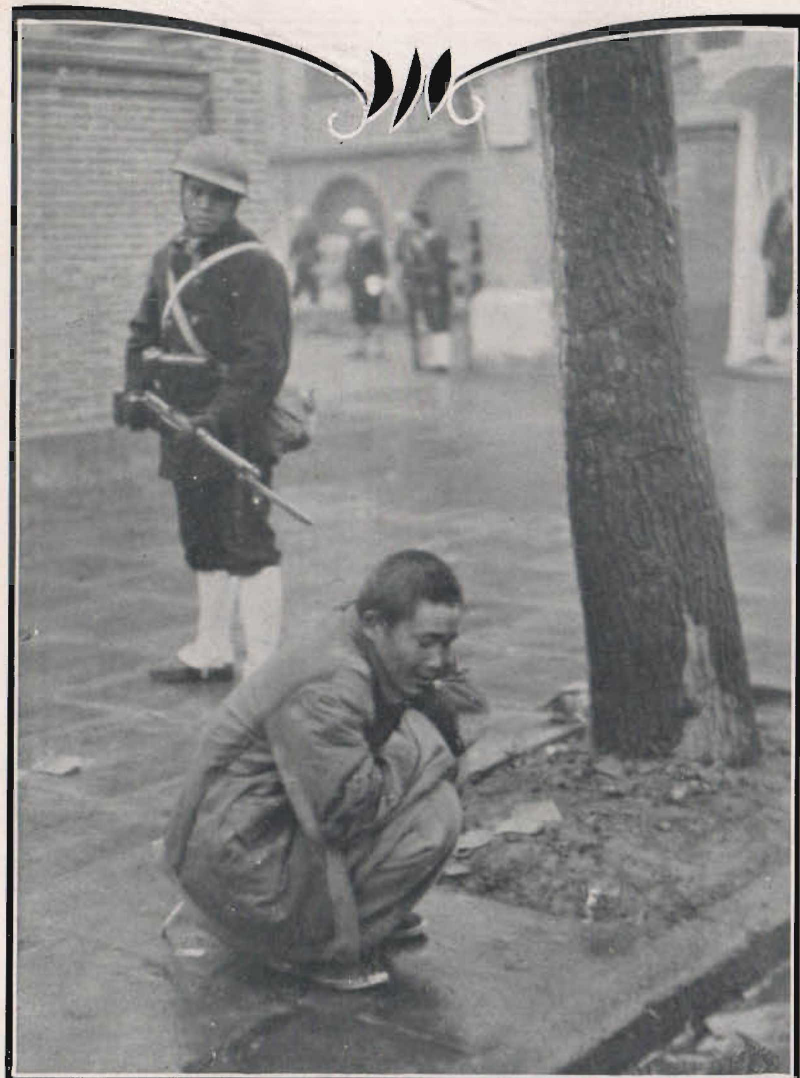
（左上）特別陸戰隊第〇大隊の勇士等、軍艦旗を押し樹て上海市中示威行進の光景。

（同下）罪なき托鉢僧を暴虐なる支那人の爲めに殺傷せられたる日蓮宗の僧侶達、我が陸戰隊が市街戰の胸壁に用ゆる土嚢の作製を手傳ひつゝあるところ。













上海事變（其五）

疲れて眠る我兵と銃殺直前の敵兵

（右上）大敵に當る寡兵の我軍、晝夜を分たぬ戰鬪に身體綿の如く疲勞し、戰ひの小閑を偸んで果敢なき眠りを貪りつつある有様

（同下）天庵通路の苦戰地帶に於て砲擊續行中の我裝甲車隊と野砲隊

（左）我兵三名を殺害したる不埒な支那の正規兵が、我軍の手に捕はれ銃殺せらるる直前の寫眞である。

上海事變

（其　六）

日章旗の鉢巻と野砲

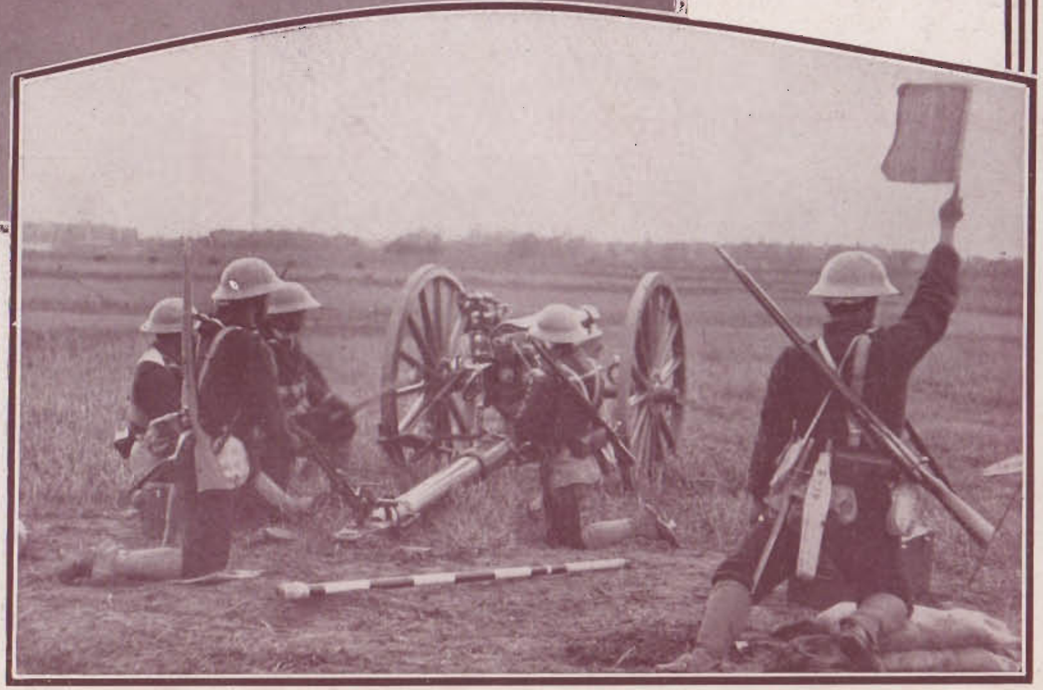
（左上）必死以て君國の爲めに戰はんとする陸戰隊の勇士等は、いづれも鐵兜の下に日章旗を染め出したる白の鉢巻をなし笑つて敵陣に躍り込む。

（右下）二月三日、總攻撃の命令を受けたる野砲隊が、今やその陣地に砲列を布き一擧に火蓋を切らんとするところ。

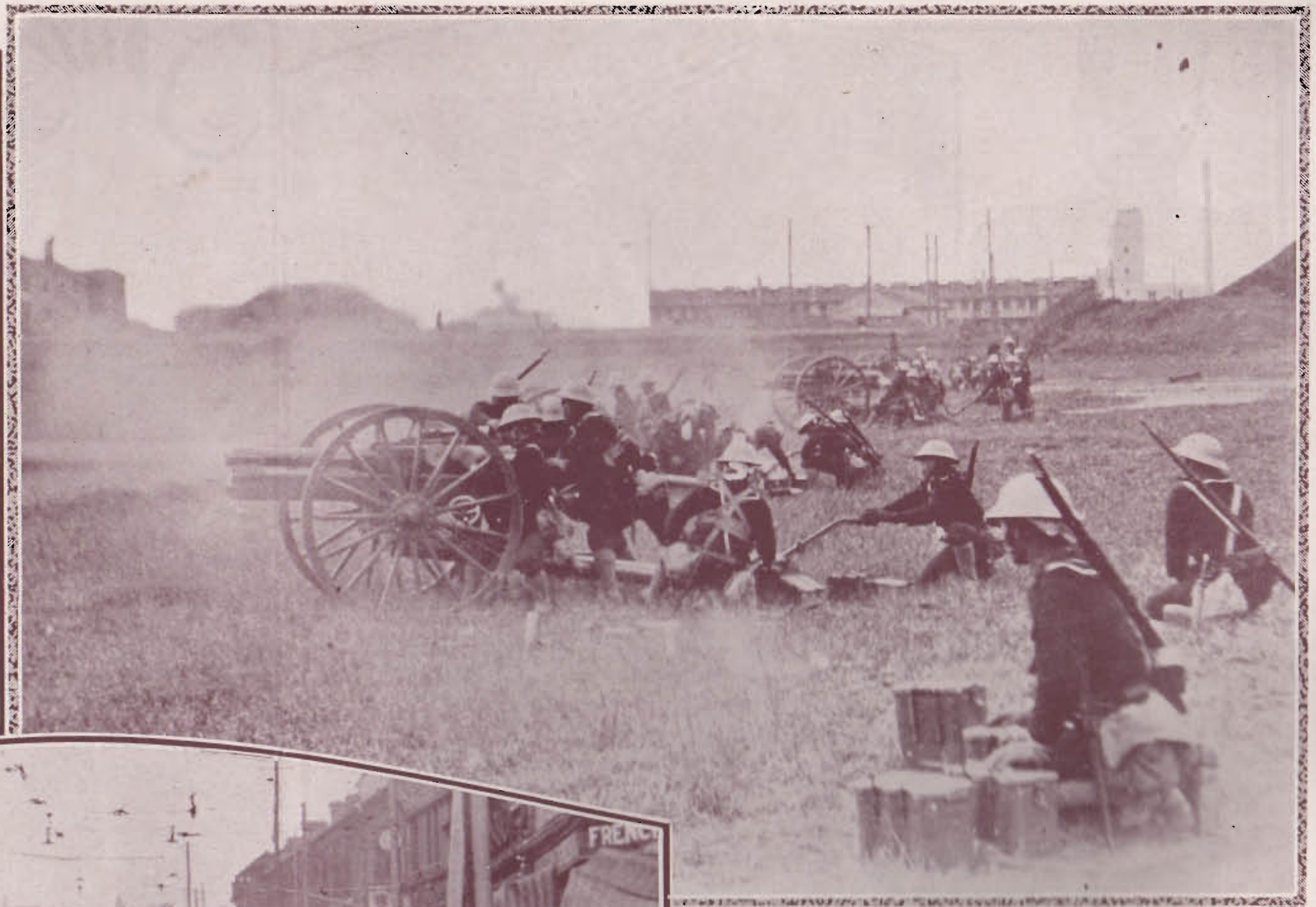
（左下）二月上旬に至り南京より廻送された敵の飛行機が大膽にも我が陣地の上空に飛來したので、野砲陣地は樹木を以てカムフラージユすることとなつた寫眞はその野砲陣地と我兵等である。













上海事變

（其七）

陸戰隊の野砲陣地と本部展望臺の海軍旗

（右上）

支那兵意外に頑強、殊にその兵數は我兵に十倍するの優勢なる爲め、連日の苦戰は想像するに餘りあるものがあつた寫眞は上海郊外射的場に於ける我が陸戰隊の野砲陣地である。

（左上）

敵砲彈照準の的となりながら晝夜監視を嚴重にする我が陸戰隊本部展望臺上に翻る海軍旗。

（同下）

ブロードウエイ通り日本電信局前の鐵條網より見る避難民の雜踏ぶりである









ハルビン入城

歩兵第二十八旅長、濱江鎭守使、東省護路軍總司令丁超の率ゐる反吉林聯合軍**ハルビン**市に據り我軍に反抗する爲め、多門〇團を主力とする我軍は一月末長春方面より前進を開始し、途中双城堡の戰ひ激烈を極めたる後敵を潰走せしめ、二月五日頑強なる敵を撃滅して堂々**ハルビン**に入城した。寫眞の右は一月三十一日双城堡驛を占據したる長谷部〇團長。中上**ハルビン**へ入城の多門〇團長。左敵將丁超。下段皇軍踴躍**ハルビン**入城の壯觀である



□滿洲事變寫眞□□□

溝幇子驛頭の元旦

我空軍の地上勤務班が溝幇子驛に於て元旦を祝ふ光景

滿洲事變

（其一）天津に於ける陸軍始分列式

昨年十一月二十六日天津に於ける日支兩軍衝突以來同地は一時小康を得てゐるけれども、いつ又事件の突發するやも圖られざる爲め、十二月に入り新たに同地に約〇〇〇闕の増兵を行ふこととなつた。寫眞は一月八日同地に於ける我駐屯軍の陸軍始め分列式で、右は香椎司令官。左は當日軍隊の市中行進で目のあたり我軍の威風に接して市民は驚異の眼を瞶つた

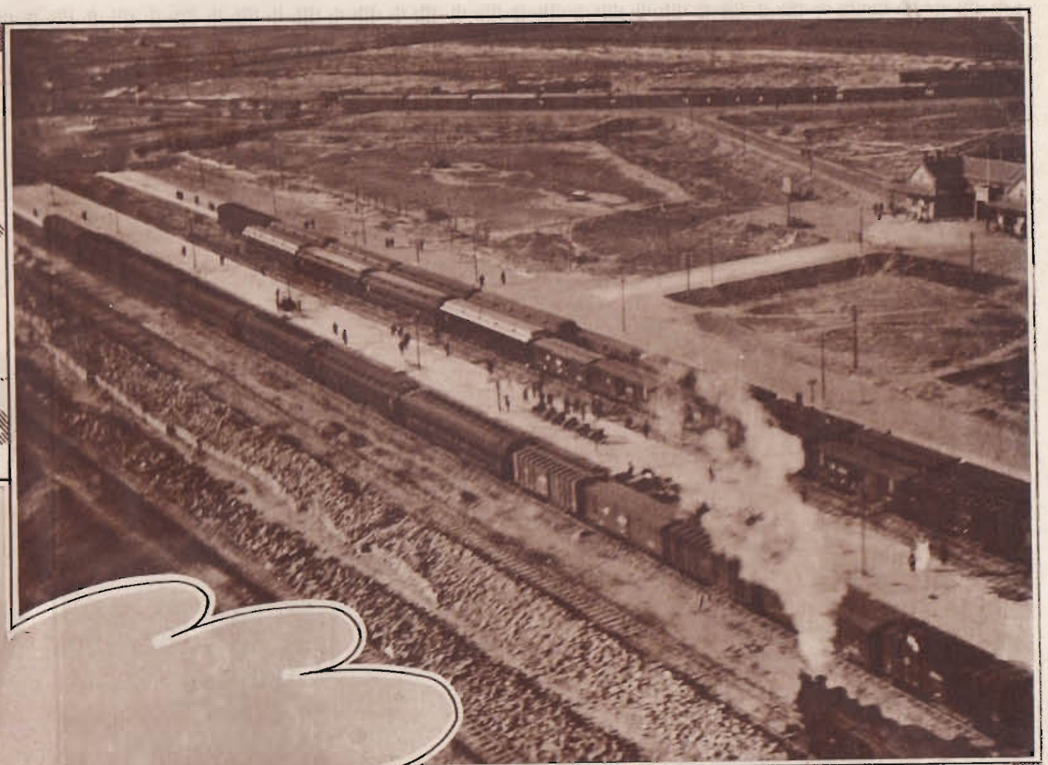




滿洲事變

（其二）白旗堡及び打虎山占領

（右）十二月下旬北寧本線に沿ひ敵を急追しつつあつた我嘉村旅團は十二月三十日殆ど一兵をも損することなくして敵の有力陣地たる打虎山を占據した。寫眞は卽ち入城後の同驛である。



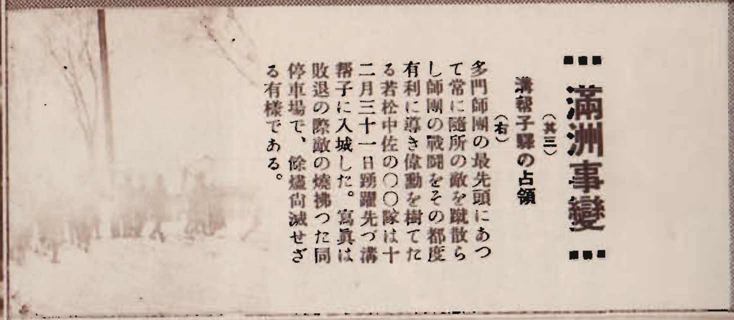
（左）十二月三十日我が嘉村旅團は白旗堡を守備しつつありたる耿繼周の義勇軍と激戰の後、午前十一時遂に同地を占據し、敵は裝甲車と言はず機關車と言はず貨車と言はず鈴なりにぶら下つて溝幇子方面に潰走し、列車に乘遲れた部隊は北寧鐵道に沿ひ蜘蛛の子を散らすが如く潰走した。寫眞は同驛に入りたる糧食運搬の我軍用列車である。



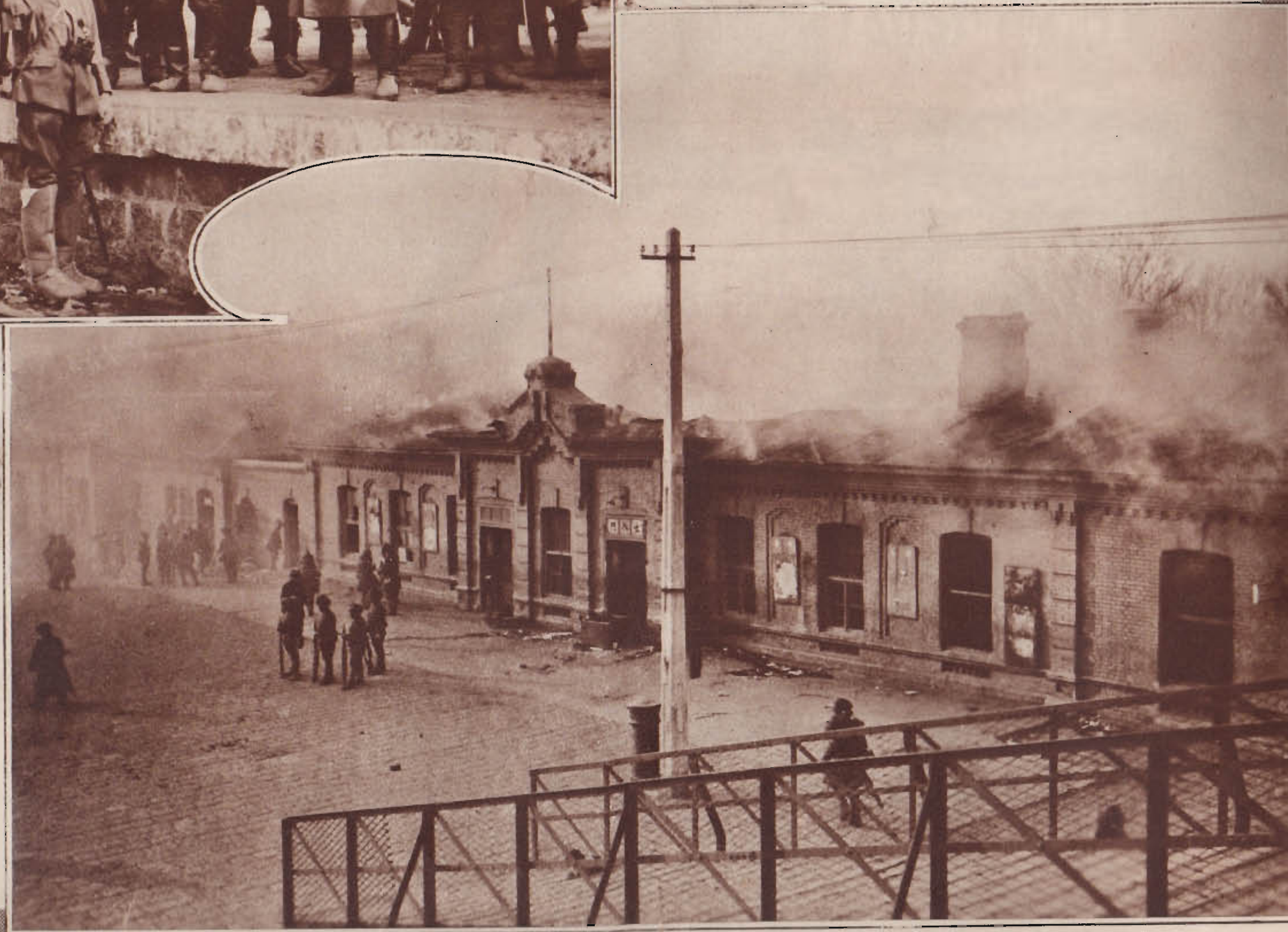
滿洲事變

（其三）

溝幇子驛の占領



（右）多門師團の最先頭にあつて常に隨所の敵を蹴散らし師團の戰鬪をその都度有利に導き偉勳を樹てたる若松中佐の〇〇隊は十二月三十一日踴躍先づ溝幇子に入城した。寫眞は敗退の際敵の燒拂つた同停車場で、餘燼尚滅せざる有樣である。







（左）十二月三十一日、多門師團並に嘉村旅團の全兵力は午後二時四十分までに溝幇子に集結を完了した。寫眞は嘉村旅團の先頭部隊を率ゐる石桁中隊長が旅團長に對し、戰鬪狀況報告の光景で、線路上にあるは石桁中隊長、ホームの左より四人目横向きは嘉村旅團長である

滿洲事變（其四）

多門師團の溝幇子入城と驛前の雜踏



（右）一月三十一日、多門師團は若松中佐の率ゐる部隊を先頭に堂々溝幇子に入城した。寫眞は即ち當日の光景である



（左）我軍の戰史に前例のない威力の充實した多數の新武器を整備したる多門師團は、無人の野を行くが如く、隨所の敵を蹴散らして一月三十一日敵の有力なる陣地溝幇子を占據した。寫眞は當日同驛前の雜踏振りである。

滿洲事變

（其五）

馬賊討伐に向ふ我軍と第四鐵嶺鐵橋の守備



（右）滿鐵沿線特に奉天以北に於ける各地方に馬賊の出沒するもの甚だしく十二月中我軍は臨寨を冒して大規模の討伐を行つた。寫眞は法庫門方面の討伐に向ふ我が騎兵隊である。



（左）鐵嶺は奉天より開原に向ふ滿鐵沿線の主要都市で日露戰爭當時にも此地で彼我の激戰があつた。滿鐵を犯さんとする兵匪は多く此界隈に出沒するので、我が守備隊は日夜嚴戒を怠らない。寫眞は同地柴河の第四鐵嶺橋を守備しつゝある我兵である

滿洲事變

（其六）馬家堡に於て捕はれたる馬賊とその武器



（右）十二月七日、馬家堡附近に於ける兵賊大討伐に際し我軍の爲めに捕はれたる賊等の使用したる武器で、その中には某國最新式の小銃も交つてゐる





（左）南滿、遼西一帶にかけて兵賊の横行益々甚だしく我軍も遂に意を決して是が大討伐を行ふこととなり十二月七日馬家堡附近に於て多數の馬賊を捕へた。寫眞は我兵今しも彼等を處分すべく、我が根據地に押送しつつある光景である。



滿洲事變

（其七）

匪賊と激戰中の警官隊及び捕はれたる便衣隊

（右）寫眞は奉天の西方五道溝なる鮮農部落に於て兵匪に燒かれたる廢墟に據り彼等と激戰中の我が勇敢なる奉天警察署警官隊である。



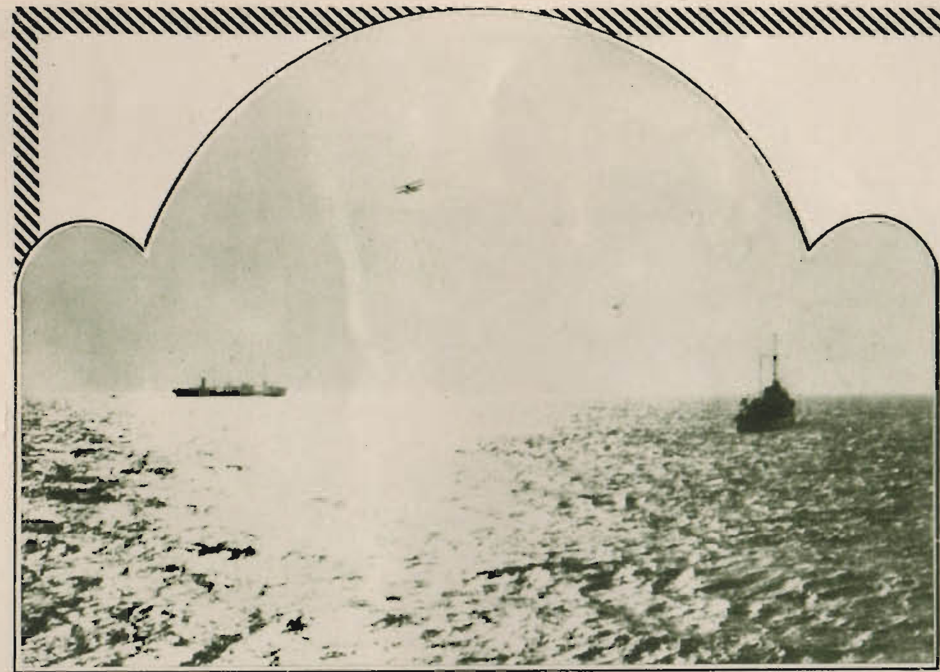
（左）十二月二十日、奉天北大營に於て我軍の爲めに捕はれたる便衣隊で、彼等の頸に掛けたる彈藥は、彼等が、その便衣の下に隱匿して密かに兵匪等に供給せんと企てつつありたるもので、かかる眾今尙ほ屢々同市中を徘徊し却々油斷がならないのである。



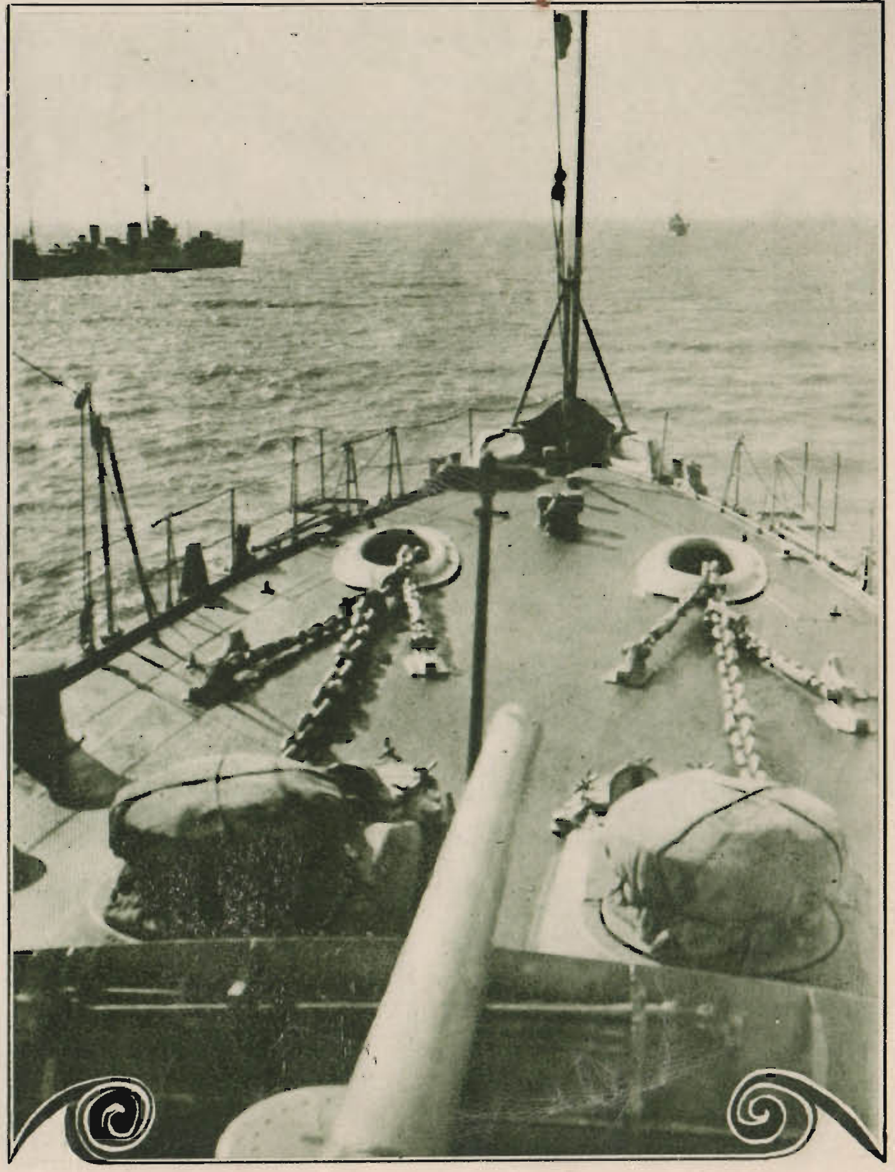
滿洲事變

（其八）山海關警備の我が艦隊

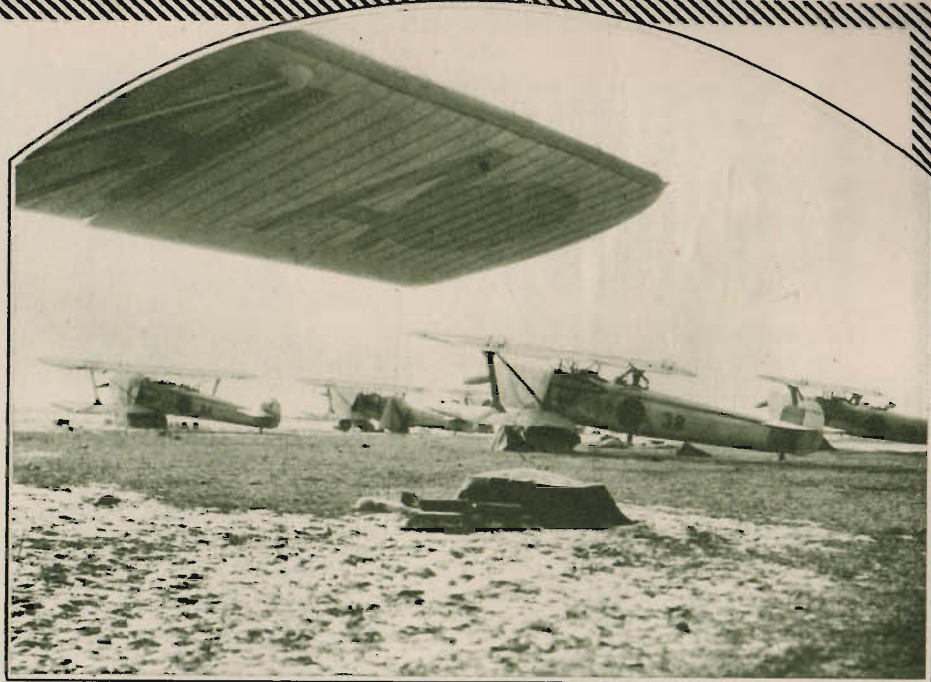
十二月末、我軍の錦州攻撃いよ〱開始せらるると共に、海軍は萬一を慮り錦州軍の撤退通過する山海關を海上より警備する爲め、同地に驅逐艦三隻と特務艦「能登呂」を出動せしめた。寫眞の右は驅逐艦、左上は「能登呂」より飛び出したる海軍飛行機。同下は同地萬里の長城起點附近である。













滿洲事變

（其九）奉天に於ける我飛行隊

今回の事變に際し我が陸海空軍の威力は遺憾なく發揮せられ各地の戰鬪に於て常に莫大なる損害を敵に與へた。寫眞の右上は十二月末我軍の錦州進擊に際し奉天に於て出動命令を待ちつゝある我が偵察飛行機。同下は全國民の熱情迸つて成りたる義勇愛國機第一號及び第二號を奉天に於て本庄關東軍司令官に傳達する有樣左は兵匪討伐に出動せんとする飛行機に爆彈を積込む光景である。

滿洲事變（其十）

野戰病院列車に於ける
我負傷者の收容と手當









（右）滿洲事變突發以來、一月中旬までの我軍の總損害は戰死者既に三百に上り負傷者の數は一千を突破するに至つた。寫眞は龍口驛に於ける野戰病院列車内の負傷者手當である

（左）類ゐ稀なる滿洲の酷寒を冒しつつ常に數倍乃至數十倍の大敵と戰ふ我將士の艱苦もさることながら一たび戰場に傷つき倒れて野戰病院に收容せらるる勇士の苦痛と無念の情とは又想像に餘りあるものがある。寫眞は一月八日龍口驛構内に於ける野戰病院列車に今しも一人の負傷者を收容せんとするところである。

滿洲事變（其十一）

張景惠氏の鈴木旅團長訪問とチチハル陸軍始め分列式



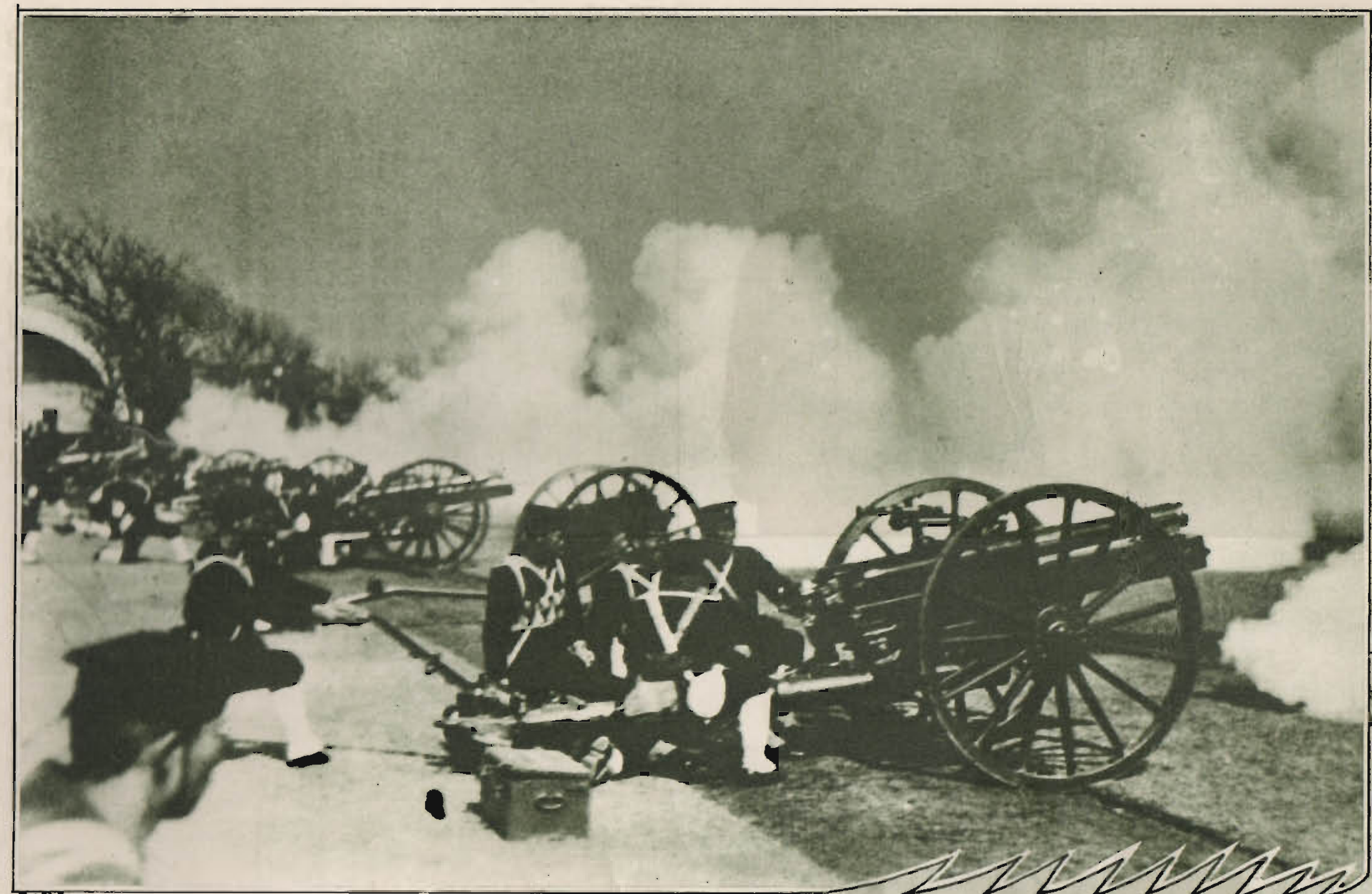
（上）黑龍江省政府主席としてチチハルに入城したる張景惠氏は一月七日同地駐屯軍司令部に我が鈴木旅團長を訪問懇談するところがあつた。寫眞は當日の光景で、左は張氏、右は鈴木旅團長である。



（下）一月八日の陸軍始にチチハル駐屯の我が鈴木旅團は、同地日本領事館前に於て盛大なる分列式を擧行し大に我が武威を示した。寫眞は卽ちその分列式。

滿洲事變（其十二）

上海に於ける陸戰隊觀兵式



（左）

一月四日軍人勅諭五十年記念式後上海虹口公園に於て擧行せられたる第一遣外艦隊陸戰隊觀兵式には、常置陸戰隊の外『天龍』『安宅』『保津』『浦風』等同地在泊各艦の上陸隊を合せて總勢一千二百名、空前の觀兵式であつた。寫眞は當日是に參加したる野砲隊の一斉射撃である。



（右）

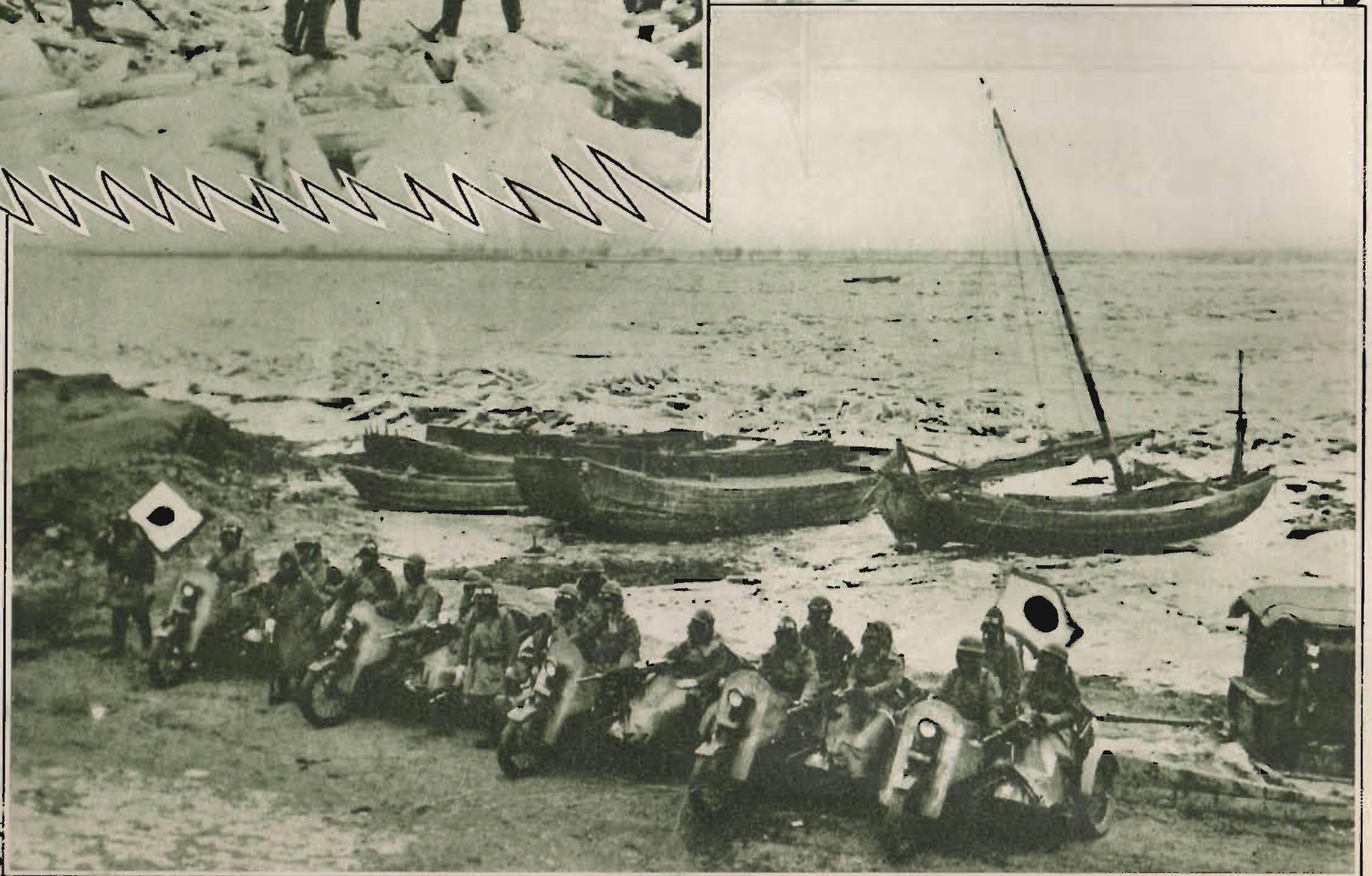
一月四日上海に於ける第一遣外艦隊陸戰隊の觀兵式は虹口公園に於て盛大に擧行せられ、同地在泊各艦の陸戰隊一千二百名是に參加した。寫眞は鹽澤司令官の裝甲自動車隊檢閲。

滿洲事變

(其十三)

結氷したる大遼河

(右)遼河は南滿洲第一の大河で、毎年十二月二十日過ぎには完全に結氷し、氷上を大砲すら自由に通過せしむることが出來る。寫眞は十二月末我軍の錦州進擊に際しサイドカー機關銃隊の同河を渡渉したる有樣である。





(左)十二月二十五六日、さしもの遼河も完全に結氷したので、我軍は遼西方面各地に割據する張學良別働隊を擊破すべく此の河を渡つて進擊を開始した。寫眞は我工兵等同河の氷上に野砲を通過せしむべく作業を開始したる光景である。

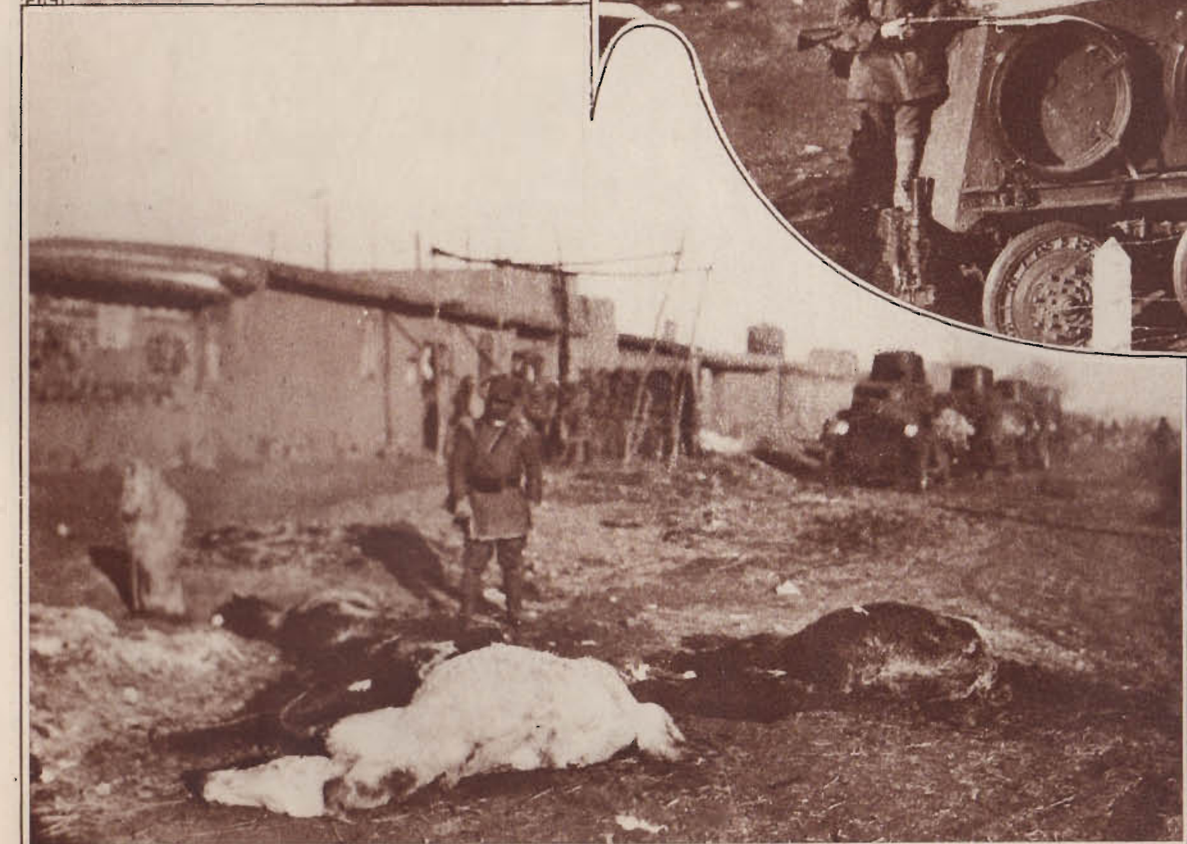
滿洲事變

（其十四）盤山一番乘の裝甲車と戰死した敵の軍馬





（右）十二月二十八日營口を出發、一氣に攻擊前進したる多門師團は翌二十九日盤山の敵を擊破し、午後二時裝甲自動車を先頭に同地を占據入城した。寫眞は當日一番乘の我が裝甲自動車である。

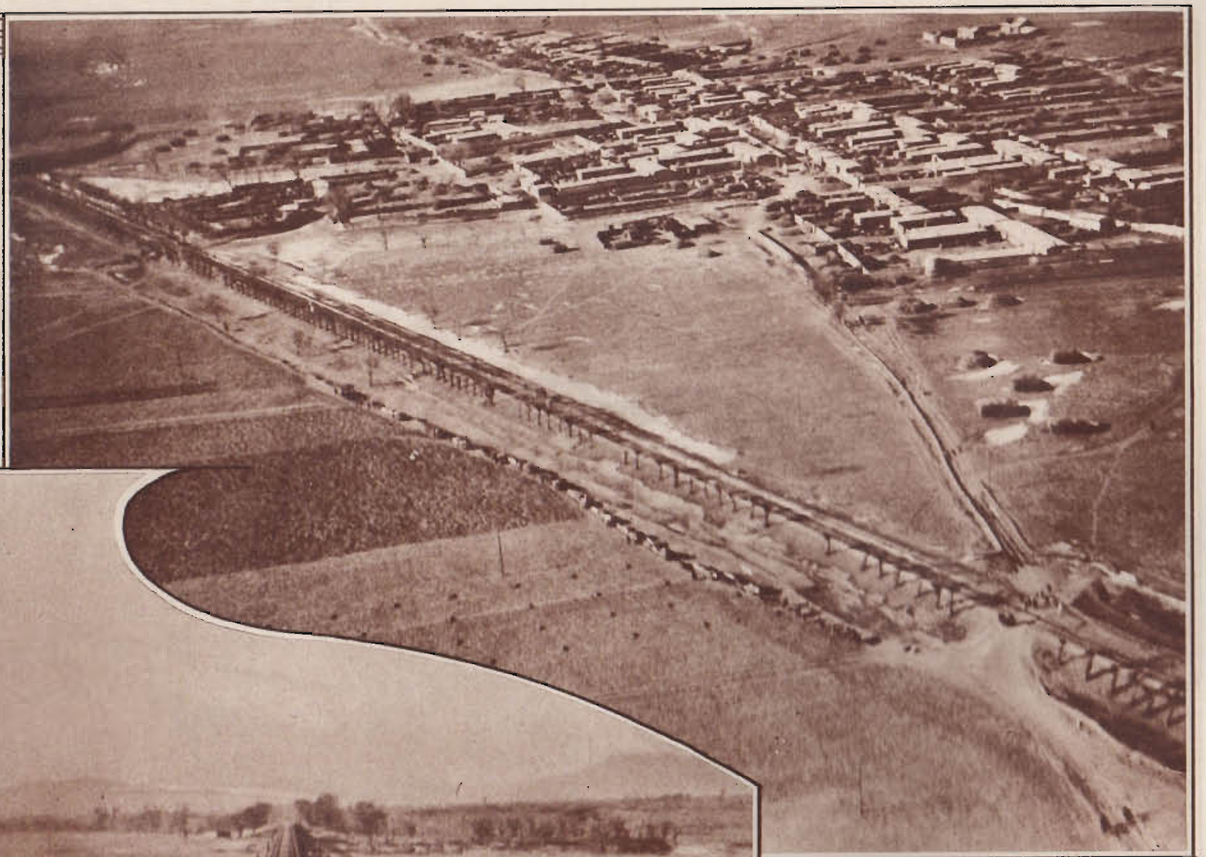




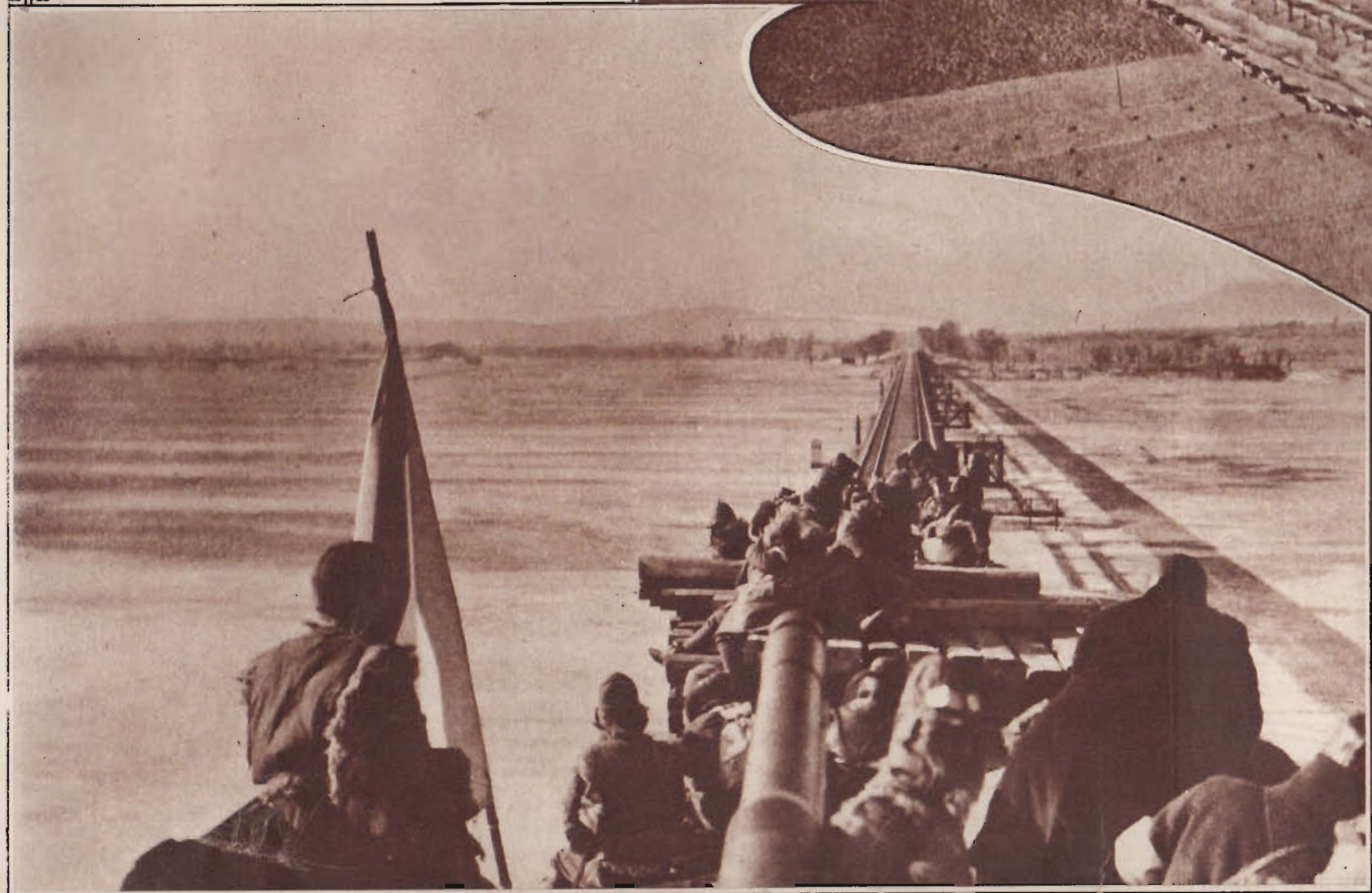
（左）十二月二十九日多門師團の先頭を承る裝甲自動車は盤山の敵陣地に敢然として突入し、死者狂ひとなつて抵抗する敵との間に壯烈なる戰鬪が開始せられたが、我軍の猛擊凄しく敵は忽ち浮足立ち遂に總崩れとなつて退却した。寫眞は同地に於て我が銃砲彈の爲めに斃れたる敵の軍馬である。

滿洲事變

（其十五）我軍大凌河を渡つて錦州に向ふ



（右）十二月三十日、我軍南北二路より溝帮子に迫るや錦州軍は速に總退却を開始し續々關內に引揚げた。かくて翌三十一日我軍は戰はずして溝帮子に入り、一月二日その先頭部隊は錦州に入城した。寫眞は我主力部隊錦州へ向つて進軍中の光景である。



（左）大凌河の西岸に三ヶ月を費して構築したる半永久の大塹壕を、敵は我軍と一戰をも交へずして放棄し總退却を行つたので、我軍の裝甲列車は一月二日難なく大凌河の鐵橋を渡り、堂々錦州へ向つて進擊した。寫眞は卽ちその鐵橋を渡る第一裝甲自動車である。

滿洲事變

（其十六）錦州軍山海關を經て關内に撤退



（右）錦州軍は我軍の武威に恐れ遂に一戰をも交へずして關内へ總退却を行ふこととなり豫め錦州驛内に準備せられし二百餘輛の貨車に搭じ十二月三十一日より續々同地を撤退した。寫眞は山海關に於て我軍が錦州よりの撤退兵を巡察しつつある光景である



（左）總勢五萬と稱せられし錦州軍は多數の貨車に鈴なりとなり山海關を經て灤州方面に撤退したが、是等の軍用列車は山海關に於ける彼我兩軍の衝突を慮り、孰れも四十哩以上の高速力を以て一氣に同驛を通過した。寫眞は卽ちその一列車が山海關通過の光景である。



□□□ 日本誠忠十二鑑 □□□

（其三）『村上義光、錦旗を奪還す』

伊藤鷲城畫伯筆

帝國海軍の偉容 ◆◆◆ 一等巡洋艦「青葉」

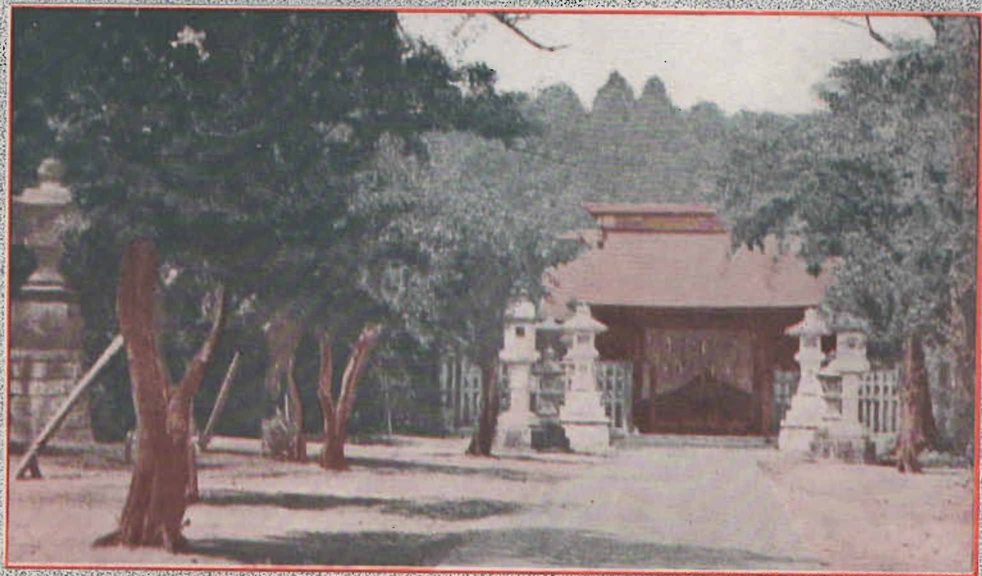


今より二十七年前、日本海大海戰の當時に於ける帝國海軍の主力艦隊全部はいづれも外國製の軍艦であつたが、今日に於ては戰艦『陸奥』『長門』を始めとして海軍の最新最鋭を以て任ずる八吋砲一萬噸級乃至七千一百噸級の一等巡洋艦から、航空母艦、潜水艦、驅逐艦等その悉くは日本製で而もその内容の優秀卓拔なる眞に外人の驚嘆するところとなつてゐる。殊に一萬噸級の『那智』『妙高』『足柄』『羽黑』及び、七千一百噸級の『加古』『古鷹』『衣笠』『青葉』等の强大なる戰鬪力は全く我海軍の世界に冠絶する獨創力に依て産れ出てたるもので、現存する列强の此の**クラス**の巡洋艦に比し實に數段の優秀さを示すものと謂はれてゐる。寫眞は卽ち『青葉』で、昭和二、九月、三菱長崎造船所に於て竣工、全長一七六米七八、最大幅一五米四七、排水量(基準)七・一〇〇噸、速力三三節を算し、備砲は八吋砲六門、八**サンチ**高角砲四門、水雷發射管十二門を裝備してゐる。

先哲の面影とその遺跡（其三）徳川光圀



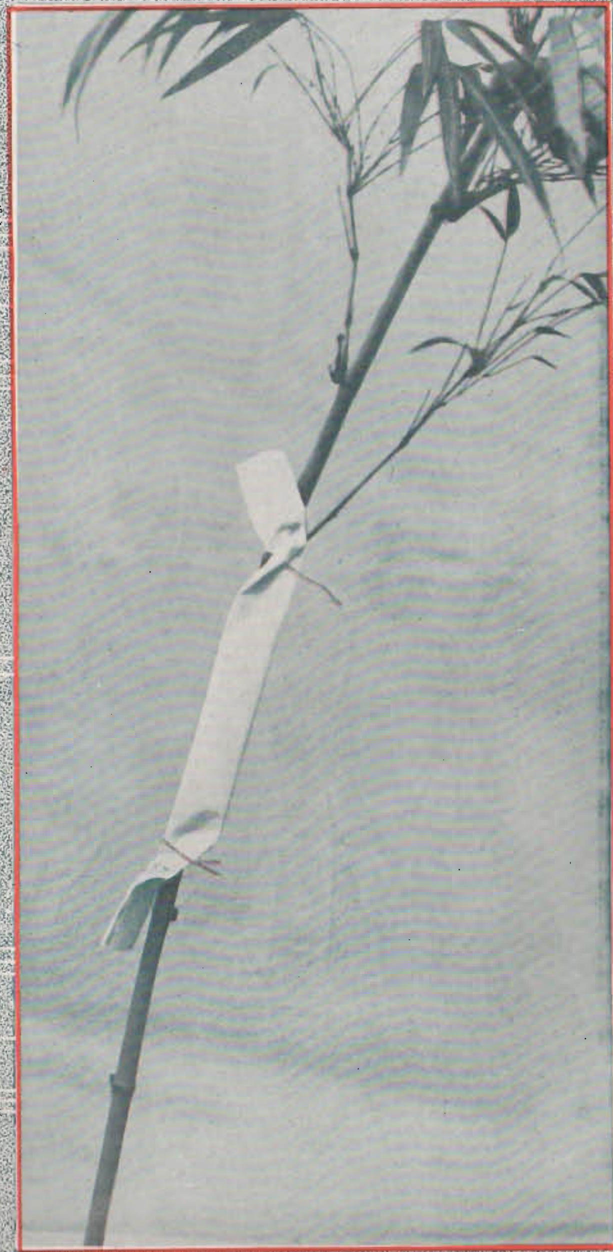




徳川光圀は水戸の城主頼房の第三子で、後水尾天皇の寛永五年六月水戸に生れた。幼にして奇俊、長じて博く群書を閲覧し、又多くの學者を集めて『大日本史』を編纂し萬古不易の偉大なる文獻を遺した。光圀夙に勤王の志厚く、國學を究め、南朝の忠臣楠正成の爲めに兵庫湊川に碑を建て、尊王を唱へ、名分を正し、千古の慶典を興した。將軍家綱薨ずるに及び、綱吉を薦めて將軍となし特にその寵遇を受けた。又、明朝の遺臣朱舜水を優遇し、自ら弟子の禮を取つた。老後諸國を漫遊して民情を探り數々の逸話を遺したのは有名である。元祿十三年十二月七十三歳を以て薨ず。諡して義公といひ又黄門と呼んだ。幕府、天下に令して七日間の音曲を停止せしめたといふことである。明治三十三年朝廷その功を嘉し正一位を贈らせられた。寫眞の右は水圀の面影、左上は現存する水戸城址、同下は光圀を祀る水戸の別格官幣社常盤神社である。

◆◆◆時代風俗寫眞小觀◆◆◆（其三）文使ひ





鎌倉時代頃は、まだ風流な藤原時代の遺風があつて縉紳家では、人に玉章を贈るにも色のついた紙に認め、是を香で焚きしめ、上包をして、その上下を捻り返し、木の枝又は竹に結びつけて、雑色（下僕）に持たせたものであつた。この寫眞は風俗研究所の所演に係り、寢殿造りの簀子に立つた直衣姿の公卿が、とある先きからの雑色より、よしある文を受けてゐるところで、雑色は退紅の狩衣を着てゐる。建築は寢殿造の一部たる對屋を示し、當時は明障子も出來、その外に格子が嵌まつてゐる。横に見えるのは脇戸であるが、形式は妻戸である。なほ右方の寫眞は玉章の包紙を示したものである。（風俗研究所長　江馬務）

◆◆◆京洛演劇名所巡遊◆◆◆（其三）「出世景清」の爪彫觀世音



惡七兵衞景清は平家の忠臣で謠や芝居にいろ〳〵と仕組まれ數々の傳説を遺してゐる。史實では鎌倉で斷食して死んだとあり、又日向の宮崎の郊外には生眼神社といふのがあつて景清此地で亡くなりその兩眼を祭神にしたと言ひ傳へられてゐる。芝居で觀る景清は平家滅亡後何とかして源氏に復讐せんものと隱れてゐたが、妾阿古屋の嫉妬と、兄十藏の貪慾から遂に訴へられ、その場は一時逃れたけれども、妻の小野姫が捕はれて嚴しい拷問を受くるよし傳へ聞き自ら名乘り出でて繩にかかつた。かくて景清は六波羅の土牢に入れられたが、その間、日頃念ずる觀世音像を爪で彫り上げたといふので、そのことが近松の『出世景清』に現はれてゐる。景清の爪彫觀世音は清水寺樓門の左手を上つた隨求堂前右側に石の唐戸に納められてある。寫眞の左は卽ちその觀世音を納めた石燈籠、右は平氏六波羅弟の址で、景清の囚はれた土牢も亦此の邊りにあつたのである。又中上は平家の菩提を弔はんが爲め景清が清水寺に奉納した兜で、今尚同寺の寶物となつてゐる。（黑川翠山寫）

井上前藏相撃たる



最近の井上準之助氏



遭難の現場



駒井氏の報告

前大藏大臣井上準之助氏は二月九日午後八時過ぎ、東京第二區民政派衆議院議員候補者駒井重次氏の政見發表演說會が本鄕駒込小學校に於て開催せらるるに就き應援演說を試みんが爲め駒井氏と自動車に同乘、同小學校前に於て自動車を降りたる刹那、突如一暴漢の爲め**ピストル**を以て狙撃せられ、連續三發を身に受けて其場に打倒れ帝大病院に運び入れたるも孰れも致命傷の爲め數分時の後、不幸絶命するに至つた。犯人は茨城縣人小沼正(二二)と稱する者である。寫眞の右上は最近の井上氏。同下中央駒井氏が記者團に對し遭難前後の顚末報告のところ。左上は遭難現場たる駒込小學校の門前。下は逮捕の直後、不逞の笑ひを浮かべつつある憎むべき犯人である。



犯人小沼正

解散より總選擧まで



議會解散後政友會本部に於ける萬歲

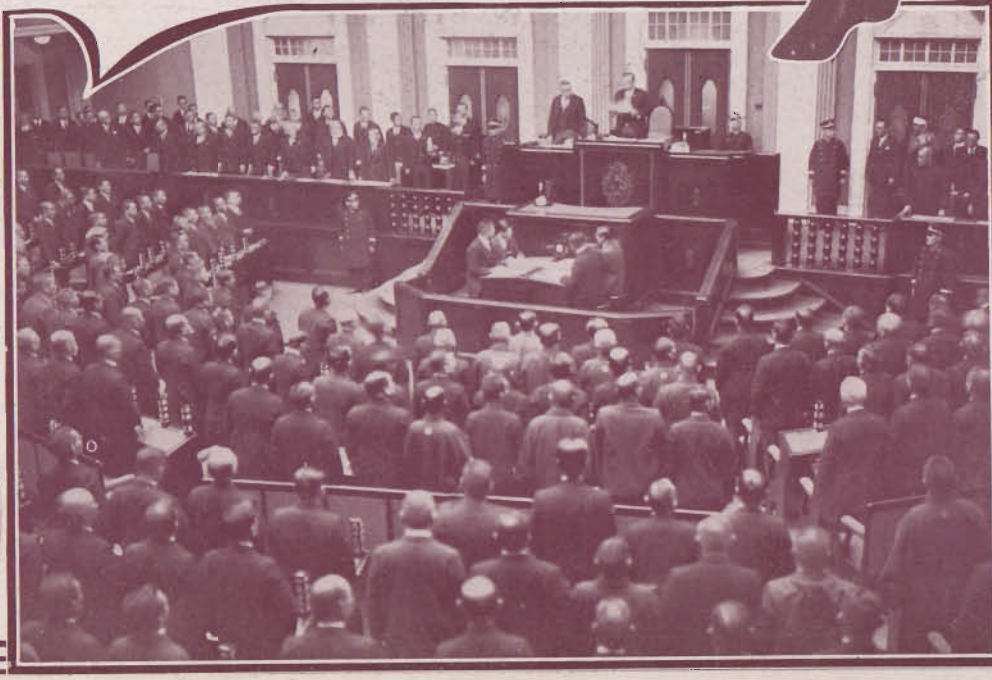


高橋藏相のレコード吹込み

一月二十一日犬養政友内閣が愈々議會を解散すべき時は來た。此日休會明けの第六十議會は先づ貴族院に於ける首相の一般施政演說に開始せられ、次で芳澤外相の對支方針演說あり、更に高橋藏相は金再禁止に就て長廣舌を揮ひ、終つて過般の不祥事件に關し柳澤保惠伯の緊急質問ありたる後、井上前藏相の金問題に就ての質問演說あり、一方衆議院に於ては貴族院同樣、犬養、芳澤、兩相登壇演說し高橋藏相金再禁止顛末並に財界事情を詳述して降壇するや、森書記官長解散詔書



立候補したる朝鮮人朴春琴氏



議會解散の刹那

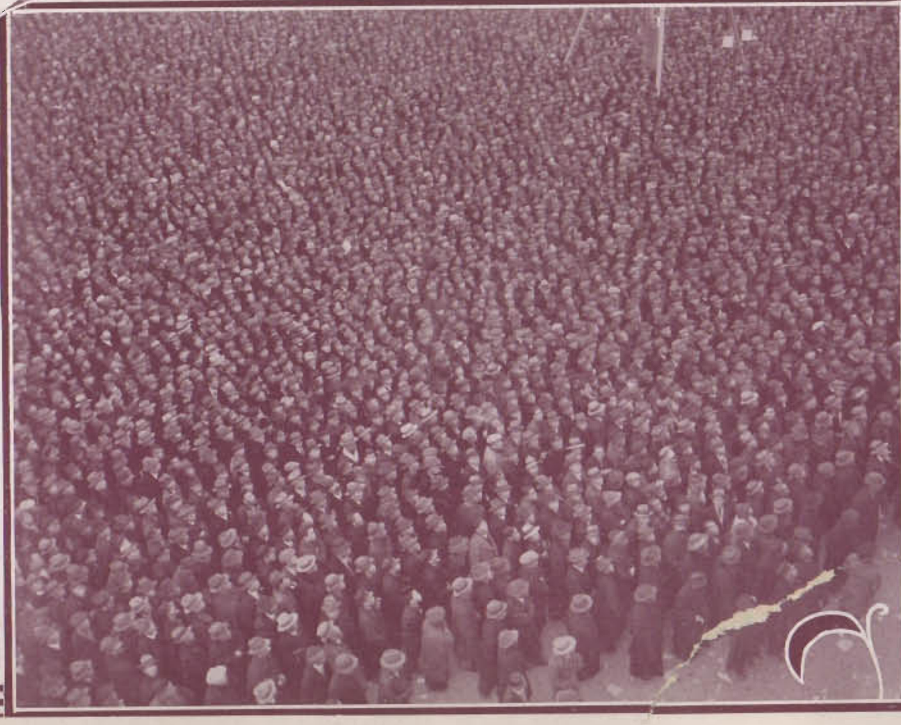
内務省より全國に配布したる選擧ポスター




馬上悠々選擧區を廻る松岡駒吉氏


若槻民政黨總裁のレコード吹込

を奏して入場、是を中村議長に手渡し、議長は滿場總起立の裡に詔書を朗讀すれば政友席先づ歡聲を擧げ、政民兩派悲壯なる萬歳聲裡に退場、時に午後三時二十五分であつた。かくて翌二十二日に至り二月二十日衆議院議員の總選擧を行ふ旨の詔書公布せられ、茲に全國一齊に第三次普通選擧は切て落されることになつた。寫眞前頁の右は一月二十八日高橋藏相が選擧用**レコード**の吹込みをなしつゝあるところ。左上は議會解散後政友會本部に於て閣僚と前代議士連の萬歳。中下は解散刹那の衆議院議場。左下は內地在住二十四年日鮮融和の爲活躍したる朝鮮人朴春琴氏が東京第四區（本所深川）より立候補し選擧事務に忙殺されつゝある有樣。後頁の右上は若槻民政黨總裁の**レコード**吹込中。上は東京第五區より立候補したる社民黨候補松岡駒吉氏が馬上悠々選擧區を廻る光景。同下は二月一日日比谷公會堂の屋外に於ける民政黨大演說會に溢れた聽衆。左は內務省より全國に配布されたる選擧**ポスター**である。

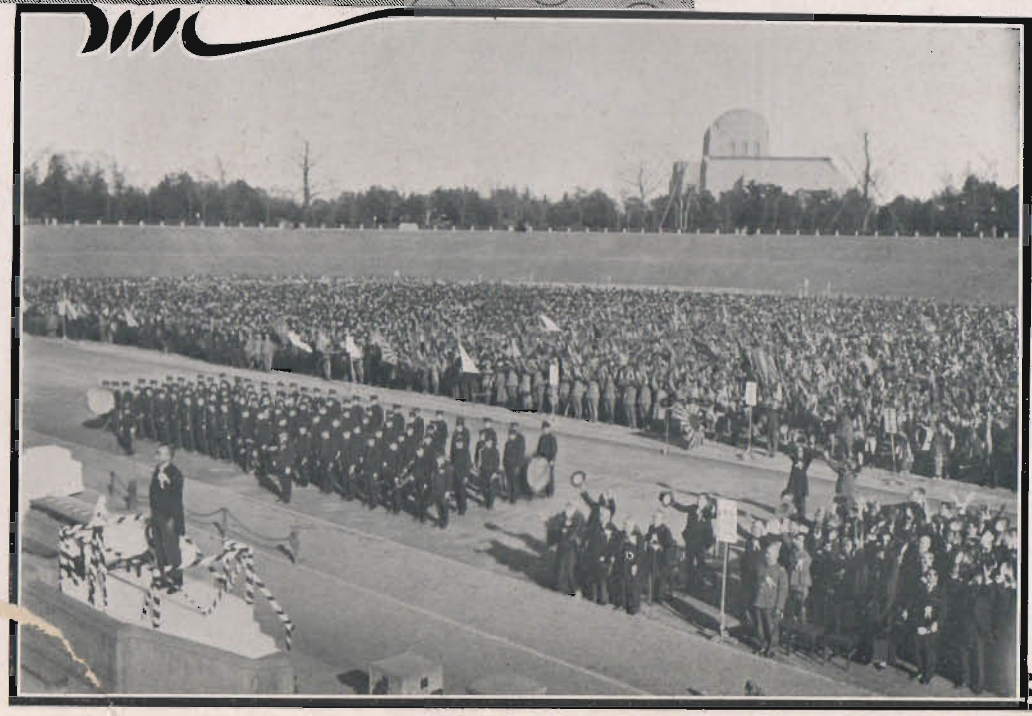

日比谷公會堂に於ける民政黨大演說會

時事小景

（右）海軍に於ては二月二日突如軍令部長の更迭を見、谷口軍令部長の後任として畏くも伏見海軍大將宮殿下を推戴することとなつた。寫眞は當日親補式に御參內あらせらるゝ伏見宮殿下である。（左上）國家多難の秋に際し金枝玉葉の御身を以て參謀總長の劇務に就かせられたる閑院元帥宮殿下に對し奉る國民感謝大會は一月三十日午後二時より神宮外苑競技場に於て舉行せられ參列者二萬數千人非常の盛況を呈し、殿下には優渥なる御言葉を賜はつた。寫眞は當日御臨場の殿下。（中下）當日の參列各團體員（左下）天皇陛下には一月二十一日折柄歸朝中の駐支公使重光葵氏を宮中に召させられ、御學問所に於て最近の南京政府の政情並に日支紛爭事件等に關し詳細御聽取遊ばされた。

















時事小景

（右上）警視總監長谷川久一氏は總選擧を前に控へて俄かに更迭することゝなり、内務省地方局長大野縁一郎氏代つて總監の椅子に就いた。右は長谷川前總監、左は大野新總監である。（下右）樞密顧問官に親補せられし政友會の長老元田肇氏。（同左）新年勅題『曉鷄聲』に豫選の榮を擔ひたる大島健一中將令嬢靜子さん。（左）米國大使館新築落成を祝し日米協會より寄贈したる鎌田翠光畫伯筆の『はぐくみ』

時事小景









（右上）大阪市東成區毛馬町手傳職松村常吉の妻よし（二八）は一月中旬同市立本庄病院に於て午前一時十五分先づ男兒を出產同二十五分男兒を、更に同三十五分今度は女兒を分娩、母子四人至つて健全である。寫眞はその三つ子。（右下）新任關東長官山岡萬之助氏。（中下）二月一日一高名物記念祭に飾られた時局を諷示した犬養、若槻兩氏の對陣である。（左）第四師團長に任ぜられ新しい大阪城の主となつた寺内壽一中將である。

時事小景









（**右上**）東都第四區から立候補した勞大黨の淺沼稻次郎君の爲めなら苦界に身を沈めても資金を調達しますと熱烈な手紙を寄せて來た福岡若松の平地みち江といふ女性（**中上**）帝國競馬協會主催の馬事展覽會は一月二十四日より五日間神宮外苑日本青年館に於て開催せられた。寫眞は是を見てゐる荒木陸相。（**同下**）毎年尖端を行くお雛樣の三二年型を紹介すれば、上段右より『ラヂオ』『議會』『照明』下段右より『滿蒙平和』『野球』『**キャムプ**』等である。（左）千葉縣の第二區から立候補したる鳩山秀夫博士

時事小景

（右）スペインの有名な舞姫テレジーナ嬢は一月二十三日東京驛着入京した。寫眞は小柄の體軀を黒豹のコートに包みたるテレジーナ嬢。（中上）大寒入りの一月二十四日午後一時より隅田川兩國橋際に於て盛大な寒中水泳大會が行はれた。寫眞は府中とみ子さんの模範









水泳。（同下）日本大相撲西方天龍以下三十一名の力士連は一月初旬以來協會と紛爭を重ねつゝあつたが同月十六日力士一同は國粋會の調停を斷乎辭退すると共に長き傳統に輝く髷を切り落した。寫眞は力士連斷髪の光景で、左より常陸島、天龍、大の里、玉碇、綾櫻。（左上）今回相撲紛擾に依り彌が上にも人氣を博した强剛天龍の和服姿である

1932

屋上庭園

●新年號は素晴しい出來榮えであつた。奇拔な材料の多かつたのと精巧な印刷振りとが卽ち最良の結果を齎したのであらう。それに目先きの變つた連載物の數々は矢張り我が歷史寫眞獨特のものであつた。それに對し二月號は聊か見劣りの感があつたが、是は早や見馴れたせいであらう。但し軍用犬及び軍用鳩の活躍を始め幾多の珍しい寫眞がなか〳〵澤山あつた。殊に時事小景寫眞を適宜に按排されたことは何と言つても編輯者の腕の冴えだ。（名古屋　敬補生）

▲（編者）一月號と二月號とを比べて見て必ずしも二月號の方が劣つてゐるとは思ひません。私は寧ろ二月號の方が充實整頓してゐるやうにさへ思つてゐます。**グラビヤ**版十六頁に滿洲事變を盛り上げたのは大に認めて頂きたい。是は他の片々たる畫報類の追隨し能はざるところと信じてをります。

●二月號は非常に氣持よく見られました。特に表紙は素晴しいもので、色の配合といひ位置といひ批難の點は少しもありません。それから來る**デリケート**な感覺は前號に勝り、何か迫るものがありますが、强いて難を言へば金刷の線が失敗したやうです。それからも一つ、戰艦『金剛』の軍艦旗の色の惡さと、**マスト**の日章旗の色が反對になつてゐるのなどは大失敗です。特に軍艦旗の色は**バランス**が取れてゐない。それから內容の色刷りの方は寧ろ單色の方がずつと好い。（京都　KKK）

▲（編者）表紙の金刷の線が何故失敗してゐるのかはつきりしませんが、あなたの手にせられた分が運惡く出來がよくなかつたのではないかと思ひます。他に二月號の金刷の惡いといふ御注意はどこからも受けませんでした。それから軍艦の日章旗の色が反對になつてゐるのは仰せの通り大失敗です。製版師が**ツイ**うつかりしたものと見えます。今後充分注意致します色刷が惡いと言はれるのは**オフセット**の色刷か又は二色版の色刷か能くわかりません。いづれにしても完全とは申し得ませんが單色寫眞ばかりの中に色刷りを入れることは誌面を賑やかにする上に必要なことです。

●西も東もわからぬ幼兒が此の『屋上庭園』に遊ばして頂くのですから、どんないたづらを仕出來すか知れませんけれど、その點はお許し下さい。二月號『滿洲事變特輯號』の寫眞誠に慴伏なして感奮興起せしむるものばかり。嗚呼酷寒の地滿洲へ出征せられてゐる勇士諸氏に對し深く感謝して止みません。――二月號の『時事小景』欄に載つてゐる**ゼネヴア**軍縮會議へ出席せらるる三全權の說明中、名前の順序が間違つてはゐませんでせうか。私は本誌が年月を逐うて內容が充實してゆくのを心嬉しく思ひます。益々御奮勵あらんことをお祈りいたします。（廣島　HM）

▲（編者）『屋上庭園』の論客孰れも甚だ振はざる時、玆に又一人の新顏を迎へたことは歡びに堪へません。さて軍縮全權の名前の間違ひは御說の通りで恐れ入りました右より永野海軍中將、佐藤大使、松井陸軍中將です。早速訂正いたします。

●私は『歷史寫眞』を昭和六年十二月號より拜見する新しい讀者で御座います。殊に『滿洲事變特輯號』に於ける貴社の努力には敬服いたします。本誌は敎育、修養、生活の上に於て何よりの良き材料と存じ、現實の生活を思ふ時、日出づる皇國に生れたるを感謝すると共に帝國臣民の一員として一層奉公の念を起さしめます。尙是に北支、南支の地圖を加へられたならば、より一層效果大なるものがあると信じます。（愛知縣千鄕村　瀧下幸太郞）

▲（編者）支那の地圖のことは考へてをります。いづれ實現いたしたいと思ひます。

●『歷史寫眞』二月號は『滿洲事變』の寫眞帖としては實に**百パーセント**の出來榮えだと思ふ。編者の頭の良さがどの**ページ**にも稻妻のやうに閃めいてゐる。事變の寫眞帖も市場にぼつ〳〵見えるやうだが、斷然群を壓して光るものは矢張り『歷史寫眞』だ。僕は自分が本誌の讀者であつたといふことに感謝せずにはゐられない。（橫濱　歷史狂）

▲（編者）有難う。世上に出てゐる多くの畫報に比べて遙かに優越したものを作り上げたいといふのは私の第一の念願です。而もその願望の半ばをも達し得ないでゐることは自分自身慚愧に堪へません。然し此の國家的大事變を永久に記念するに足る理想的の畫報をお目にかけたいと思つて今後も日夜心を勞してゐる私です。どうかよろしく御鞭撻を願ひます。

●『歷史寫眞』も到頭『滿洲畫報』と化してしまつた。早く常態に歸りたいものだ。然し斯う特輯號を列べて見ると本誌の讀者だつたことを悅ばずにはゐられません。歷史の重大な一**ページ**を居ながらにして記錄出來るのも全く本誌の努力のお蔭です。二月號も相變らず豐富に盛り上げたが中堅二色版が減つたやうだ。けれども孰れも趣味のない出來榮えで、從來よりも數等進步した。此の調子で行きたいものです。うぬぼれかも知れないが私の反語的戰法も幾分奏功したんだと考へて見ると微笑を禁じ得ません。（福島　新しい讀者）

▲（編者）本誌の愛讀者であるといふことを自ら喜んで下さる方々の多いことを、私も亦心からよろこばしく思ひます。

世界日誌

自昭和七年一月六日
至昭和七年二月五日

◇一　月◇

（六日） 大相撲協會西方幕内力士大ノ里、武藏山、天龍、綾櫻以下全部三十二名の力士連は角界の積弊を打破する目的を以て天龍の後援者影山由己氏の經營する東京市外大井町の支那料理店春秋園に集合籠城することとなり、八ヶ條より成る要求書を作成、協會に提出したり。

（七日） 本日午前四時十分頃、數百名より成る兵匪の一團鐵嶺に襲來し、城内を占領して附屬地に進撃し來る。

（八日） 皇軍の威容を誇る陸軍始觀兵式は代々木練兵場に於て擧行せられ、大元帥陛下には午前十時式場に臨御、近衞第一兩師團の精鋭一萬有餘を閲はさせられたるが、宮城御還幸の御途上、警視廳前に差蒐らせられたる際一不逞鮮人鹵簿を目がけて爆彈を投じたるも至尊には何等御支障あらせられず。

（九日） 不敬事件突發の爲め内閣總理大臣犬養毅氏以下閣員一同恐懼措くところを知らず、犬養首相は本日午前九時十五分宮中に參内辭表を捧呈したるが、畏くも陛下に於かせられては時局重大の際留任せよとの優渥なる御諚を賜はりたるに依り、緊急閣議を開催し、協議の結果、聖旨に副ひ奉り留任することに決定す。

（十日） 錦州方面の匪賊討伐に向ひたる我が騎兵第〇〇聯隊は九日夜より今朝に亙り約三四千名より成る張學良別働隊と衝突激戰の結果、聯隊長古賀傳太郎中佐以下二十餘名無殘の戰死を遂げ負傷者亦二十數名を出し同聯隊本部全滅の慘事を招きたり

（十一日） 七年度總豫算決定し本日發表せらる。是に依ればその總額は歳入歳出共十三億九千七百九萬五千圓なり。

（十二日） 去る八日突發したる不祥事件に關し御警衞上の當面の責任者たる警視總監長延連氏取敢ず休職處分に付せられたるに依り、東京府知事長谷川久一氏其跡を襲ひ本日警視總監に任ぜられたり。

（十三日） 東京市電廣尾營業所目黒派出所詰電車從業員約百五十名は同僚栗林某の違則處分に關し不當を唱へ、今朝より突如罷業に入り、同時に廣尾側從業員約三百五十名も是に同情して乘務せず態度極めて強硬なりしも、東京交通勞働組合本部に於て幹部會を開き協議の結果、此の爭議は今後持續せしむるとも前途の見透しつかざるの理由を以て休戰を通告し、今夜十時四十分より電車の運轉を開始す。

（十四日） 犬養内閣の外相たるべき駐佛大使芳澤謙吉氏は本日午後四時四十五分東京驛着列車にて**フランス**より歸朝、卽日宮中に於て外務大臣に親任されたり。

（十五日） 國民愛國心の結晶として完成せられたる我が愛國號飛行機第一號及び第二號の授受式は本日午後一時五十分奉天飛行場に於て本庄關東軍司令官出席、莊嚴に擧行せられたり。

（十六日） 本月初旬以來協會に對し反旗を飜しつつありたる新興力士團天龍以下三十名の力士連は、國粹會の調停を謝絶し自己の信念に向て邁進する爲め今朝悲壯の決意を以て悉くその髷を切落したり。

（十七日） 去る九日錦西方面に於て兵匪八百に襲はれ激戰中の報ありたる儘行方不明となりたる松尾幅重隊の勇士松尾少尉以下二十六名の戰死體は本日錦西東方三里の紅螺山麓附近に於て發見せられたり。

（十八日） 勅題『曉雞聲』の宮中歌會始の儀は本日午前十時より鳳凰の間に於て兩陛下臨席の上いと嚴かに執行はせられたるが、今回の詠進歌は總數四萬三百五首に上りたり。

（十九日） 南京政府は對日國交斷絶を協議しつゝある一方、駐日公使蔣作賓の後任として元外交部長王正廷を任命することに内定したるものの如し。

（二十日） 去る十七日未明朝鮮銀行平壤支店の金庫を破壞し七十八萬圓を窃取したる近來稀有の怪盜事件は、平壤署を中心に鮮内各署と協力大活動の結果、二十日午前四時五分主犯市内賑町貸座敷業松の屋主人佐孝田甚吉を逮捕し、盜難金の内七十餘萬圓を發見押收したり。

（廿一日） 本日午後三時二十五分、衆議院解散の詔書下る。

（廿二日） 議會解散と共に政民兩黨孰れも總選擧の準備に着手し、本日午後十時までの立候補屆出數合計五十九名にして其の内政友二十名、民政三十二名、無産派其他七名なり。

（廿三日） 上海民國日報の不敬記事に續く我が海軍侮辱問題に關し、陸戰隊より發したる抗議に對する彼れの態度極めて誠意を缺くものあり、爲めに我軍は今明日中に最後的手段に出づべく既に準備に着手せり。

（廿四日） 本日午後一時頃打虎山西方二十**キロ**の正安堡附近に於て我が陸軍飛行將校花澤大尉田中曹長の搭乘せる偵察機は機體に敵の猛射を受けて墜落兩氏共悲壯なる戰死を遂げたり。

（廿五日） 上海に於ける支那側の不誠意に事態愈々決裂の覺悟を極めたる村井總領事は本日外務省に最後通牒に關する指示を求め、同時に上海に於ける我が陸戰隊及び碇泊軍艦は一齊に殺氣立ちたり。

（廿六日） 東支鐵道護路軍の司令丁超の部下約一千は本日未明突如**ハルビン**支那街を占據し、巡警約二十名、市民約三十名を銃殺、吉林政府軍と對抗しつつあり。

（廿七日） 行政裁判所長官窪田靜太郎氏、子爵栗野愼一郎氏及び立憲政友會顧問元田肇氏は本日樞密顧問官に親任せられたり

（廿八日） 佐世保より出動したる旗艦『夕張』以下日本海軍の所屬艦十三隻は今朝六時威風堂々上海に到着し、陸戰隊約五百名上陸す。

（廿九日） 上海に於ける我陸戰隊は昨夜十一時十分整列出動準備を整へ、同十五分電光石火的に行動を開始し、彼我の戰鬪激烈を極めたるが、形勢の重大化に鑑みたる我海軍は本日第一艦隊の第三戰隊（司令官堀悌吉少將）及び第一航空戰隊（司令官加藤隆義少將）に對し上海方面に向ひ急遽出動命令を發したり。

（三十日） 時局重大の秋に際し金枝玉葉の御身を以て參謀總長の劇務に御就任あらせられたる閑院宮殿下に對し奉る國民感謝大會は本日午後二時より神宮外苑競技場に於て擧行せられ、總長宮殿下親しく台臨御言葉を賜はらせられたり。

（卅一日） **ハルビン**の危急切迫の爲め長春より同方面に出動を開始したる長谷部〇團の前衞隊は本日午前六時双城堡に於て約二千の反吉林軍に襲撃せられ激戰の後是を撃退、同地を占據す。

◇二　月◇

（一日） 上海の形勢に鑑み**マニラ**にある米國**アジア**艦隊中の驅逐艦四隻は本日午前九時同地出發上海に向ひ、續いて午後一時旗艦『**ヒユーストン號**』に陸戰隊四百名を搭載し驅逐艦三隻を隨へて同じく上海に向け出動す。

（二日） 時局愈々重大化し、皇國將に擧國一致此の國難に處せんとするに當り、海軍に於ては本日突如軍令部長の更迭を行ひ谷口軍令部長の後任として畏くも伏見大將宮殿下を推戴することとなり午後二時宮中に於て親補式を擧行せられたり。

（三日） 上海に於ける我軍は本日午後二時より空陸相呼應して總攻撃を開始したり。

（四日） 英米佛三國より帝國政府に對し提議し來りし上海事件に關する同文通牒に對する帝國政府の回答通牒は本日外務省より各駐日大使を通じて發せられたり。

（五日） **フランス**政府は本日の**ゼネヴア**軍縮會議に戰爭防止の爲め國際警察及び國際軍隊設置案を提議す。

本號に限り定價金六拾錢

歷史寫眞第貳百貳拾六號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年二月二十五日印刷納本
昭和七年三月一日發行

定價送料共一部　金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣　同　金六拾錢
其他外國　同　金八拾錢

編輯發行兼印刷人　東京府下代々幡町幡ヶ谷一二三〇　多田鐵雄
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社
發行所　東京市神田區千代田町二八　歷史寫眞會
本取扱誌所
（電話神田六五七）（振替東京三四八二九）